2024 年度 履修要覧

現代経営研究科現代経営専攻 (修士課程)

東洋学園大学大学院(現代経営研究科現代経営専攻 修士課程) 2024 年度履修要覧・シラバス 目次

履修要覧

I. 東洋学園大学大学院 現代経営	研究科 にようこそ	1
Ⅱ.本学の沿革と構成		
1. 本学の沿革		2
2. 本学の構成(研究科、学	部・学科の紹介)	2
Ⅲ. 現代経営研究科の教育目標(3	ポリシー)	5
IV. 東洋学園大学大学院学則		7
V. 履修の手引		
1. 単位制と課程の修了要件	:	21
2. 授業科目の構成と履修モ	デル	21
<u>(別</u>	表)	25
3. 授業時間		23
4. 試験と成績		26
5. 修士論文の指導と審査		29
VI. その他		
1. 研究活動上の不正行為防	〕止について	34
2. 1号館 7階(大学院生フ	'ロア)の使用について	35
シ ラ バ ス 学 事 日 程		36
子 争 卩 怪		
【基礎研究科目】		
マーケティング研究	隈本 純	37
アカウンティング研究	藤野 雅史	39
ファイナンス研究	冨田 洋介	41
人的資源研究	横山 和子	43
経営学手法研究	未定	45
【基幹研究科目】		
経営管理研究	赤尾 充哉	47
マーケティング戦略研究	隈本 純	49
経営戦略研究	李 新建	51

	人的資源戦略研究	横山	和子			<u>53</u>
	財務会計研究	冨田	洋介			<u>55</u>
	管理会計研究	藤野	雅史			57
	ファイナンス戦略研究	冨田	洋介			<u>59</u>
	相続・事業継承設計	冨田	洋介			61
	タックスプランニング	冨田	洋介			63
	特別講義I	清水	由美			65
	特別講義 II	清水	由美			67
【関	連研究科目】					
	ビジネス経済研究	田中	巌			69
	ビジネス法律研究	北島	純			71
	欧米ビジネス研究	セーラ	ラ バーチュ	ı IJ		<u>73</u>
	中国ビジネス研究	李亲	所建			75
	践研究科目】 ケーススタディ1(マーケティンク ケーススタディ2(ファイナンス) ケーススタディ3(ヒューマン・リ		X)		<u>純</u> 秀人 和子	77 79 81
【課	題研究科目】					
	現代経営特別演習	研究指	旨導スケジ <i>:</i>	ュール		83
		田中	巌			84
		李 亲	所建			84
		畔上	秀人			85
		隈本	純			85
		セーラ	ラ・ルイーサ	ド・バ ー	ーチュリ	86
		赤尾	<u> </u>			86
		安藤	拓生			87
		富田	洋介			87

<u>経営学研究 馮 晏 / 赤尾 充哉 89</u>

I. 東洋学園大学大学院 現代経営研究科 にようこそ

東洋学園大学 学長 辻中 豊

自彊不息(じきょうやまず)の丘、本郷台地の先端にある東洋学園大学にようこそ!

この大学院便覧は、皆さんがこれから送る大学院生活という旅の、とても大切な羅針盤であり、 地図です。ちょっと面倒かもしれませんが、はじめにしっかり全体を眺め、そして気になるとこ ろから読んでみましょう。

たくさんの規則や説明、案内そして、さまざまな大学からのサービス、気を付けること、窓口の案内などが記載されています。わからないところは、教員、職員に遠慮なく聞いてみましょう。 先輩に聞くのも大切ですね。この便覧は、皆さんと大学との約束の束ですから、ちょっと困ったとき、迷ったときには、この便覧を読み直してみてください。

さて、自彊不息の丘、といいましたが、この言葉、「自彊不息」は、東洋学園大学の建学の精神です。といっても、とても古い言葉(『易経』が出典)ですので、説明が必要ですね。

自彊の「彊」という字は、強という字に書き替えられますが、もともとはこの難しい字です。 よく見ると、弓と一と田と一から成っています。田んぼを区切り弓で守る、という意味 を示す象形文字のようですね。つまり、自彊不息というのは、自分の愛するフィールドをしっか り休みなく、自分で強化し続ける、ということですね。たゆまず自ら努めて励む、学び続けるこ とですが、まず大切なのは、自分の好きなフィールドを見つけ、それを続けていくことです。好 きなフィールドさえ見つかれば、難しいことではないでしょう。

とはいっても、自分の好きなフィールド(研究テーマ)とは、何でしょう、どのように見つけるのでしょう。漢字が示すように昔のお百姓さんには田んぼや畑ですが、21世紀に生きる今の皆さんにとっては何でしょう。東洋学園大学は、時代の変化に応える国際人を育てる面倒見のよい大学です。皆さんが、この大学院生活の中で、一生、考え続けていける、好きなフィールドを見つけてほしい、そのための助力をしっかりしたいと私たちは考えています。

本郷台地の先端にあるこの地は、皆さんが自分の好きなフィールドを見つけ、探究するのにとてもよい場です。江戸時代には、近くの湯島の聖堂で人々が学び、その後、明治以降の近代化の中で、日本が海外の知との間で格闘し切磋琢磨した場が、この本郷台地なのです。ここから、今も様々な道や線路が伸び、現代社会の成長の先端部分に繋がっています。

それでは、この本郷キャンパスで、現代という時代をみつめ格闘しながら、しっかりと自彊不 息の、自分のフィールド(研究テーマ)を見出し、オリジナルな論文を書く旅に、出掛けていき ましょう。楽しい旅にようこそ。

Ⅱ. 本学の沿革と構成

1. 本学の沿革

本学の設立母体である学校法人東洋学園の歴史は、1926 (大正 15) 年、故宇田尚先生が東京・ 本郷に創設した財団法人東洋女子歯科医学専門学校に始まる。

東洋女子歯科医学専門学校は、1950(昭和25)年の学制改革により廃止されるまでの25年間、2,844名の女性歯科医を世に送り出し、女性の社会進出が立ち遅れていた戦前期に女性の専門的職業教育の分野で大きな足跡を残した。

東洋女子歯科医学専門学校が廃止された 1950 年 4 月、新たに英語教育に重点をおいた東洋女子短期大学が同じ東京・本郷の校地に設立され、以来すでに 60 年の校史を積み重ねている。この間、1982 (昭和 57) 年には本郷キャンパスの英語英文科に加え、千葉県流山キャンパスに地域研究を柱とした多角的な国際化教育を行う欧米文化学科を新設するなど、東洋女子短期大学は、女性の自立を目標に、つねに時代を先取りした新しい試みの教育を実践してきたが、2006 (平成 18) 年に歴史の幕を閉じ、その伝統は本大学に引き継がれることとなった。

学校法人東洋学園は、このような女子高等教育の実績を、より高度に、またより深く掘り下げ、日本の国際化という新たな時代の要請に応えるため、男女共学の 4 年制大学の新設に踏み切った。こうした歴史と背景のもとに、1992(平成 4)年、東洋学園大学が開設されたのである。

開設当初は、人文学部の1学部であったが、2002(平成14)年に本郷キャンパスに現代経営学部を設置し、2学部を有する大学となった。また、2006(平成18)年から、教養教育の充実とキャンパス共用化による大学としての一体感の醸成等を目的として、両学部の1・2年生は流山キャンパス、3・4年生は本郷キャンパスで学ぶこととなった。そして、2008(平成20)年にこれまでの学部教育において展開してきた経営学分野の教育内容を基礎としつつ、学部教育で培われた専門的な素養のある人材として活躍できる基礎的能力に立ち、専門性を一層向上させていくことを目指して、大学院現代経営研究科現代経営専攻修士課程を設置した。さらに、2013年度の入学生からは人文学部を発展的に解消し、代わりにグローバル・コミュニケーション学部と人間科学部を設置した。そして、前者には、グローバル・コミュニケーション学科と英語コミュニケーション学科を付置し、同時に後者の人間科学部には、専門性を高めるための教育と施設の充実を図っているところである。

2. 本学の構成

本学(Toyo Gakuen University)は、「高い理想のもとに深い教養と正しい判断力を身につけ、 広い視野と国際的な識見を備えた有能な人材の育成」(学則)という目的を追求するために、グロ ーバル・コミュニケーション学部(Faculty of Global Communications)、人間科学部(Faculty of Human Sciences)、現代経営学部(Faculty of Business Administration)及び現代経営研究科 (Graduate School of Business Administration)を有している。 グローバル・コミュニケーション学部は、グローバル・コミュニケーション学科 (Department of Global Communications) と英語コミュニケーション学科 (Department of English Communications) の 2 学科で構成されている。人間科学部は人間科学科 (Department of Human Sciences) の 1 学科で構成されており、現代経営学部は、現代経営学科 (Department of Business Administration) の 1 学科で構成されている。現代経営研究科は、現代経営専攻 (Master's Program in Business Administration) の 1 専攻で構成されている。

現代経営研究科

既設の現代経営学部現代経営学科を基礎として、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的としている。

現代経営学部

現代経営学科

現実に発生するさまざまな経営問題は、世界的な広がりを持ちながら複雑かつ多様化してきている。そのため、経営分野における知識の習得に加えて、主体的に変化に対応し得る、幅広い視野や総合的な判断力、豊かな創造性を兼ね備えた人材の養成が求められる。そこで、現代経営学部では、現実の経営問題を的確に認識し、総合的な企業経営や経営管理が実践できる知識や能力と英知(Wisdom)を獲得するために必要な教育を行う。

グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科

グローバル・コミュニケーション学科は、日本や諸外国の文化・社会に関する知識をもち、 グローバル社会の諸課題について理解することにより、社会事象を正確に判断し、自己の考え を的確に発信できる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指す。

英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科は、①英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、実践的な英語のトレーニングを通じて、英語によるコミュニケーション能力を養うことにより、グローバルビジネスや文化関連産業で活躍できる人材、②英語に関する専門的な知識を身につけ、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、英語教育活動に必要となるコミュニケーション能力を有する人材の育成を目指す。

人間科学部

人間科学科

人間科学科では、人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、①人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参与し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力と②社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を修得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指す。

Ⅲ. 現代経営研究科の教育目標(3ポリシー)

学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

大学院現代経営研究科では、以下の各能力を身につけ、学則に定める修了要件を満たした者に対し、修了を認定し、修士(経営学)の学位を授与する。

- **DP-1** 現代社会の変化と、それにともなって出現している企業や家計における課題を自らとらえることができる。
- DP-2 グローバル化がもたらす社会への影響と課題を自らとらえることができる。
- DP-3 企業や政府が現代社会に対して担う役割を、自らの手法で分析することができる。

教育課程の編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーに掲げる 3 つの能力を修得させるために、以下のような科目を配置する。

- CP-1 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。
- CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。
- CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した知識を習得する。
- **CP-4** 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの技術を習得する。
- CP-5 各自の課題について文献調査や実地調査を行い、研究成果を論文の形で公表する能力を涵養する。

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

大学院現代経営研究科では、次のような能力・意欲・関心を有する学生を、各種選抜試験を通じて受け入れる。

AP-1 最新の学術的な経営の知識を習得し、その知識を実践的な場に応用することを目指そうとする人材

AP-2 複雑な現代社会における企業経営について学際的視点から論理的に分析しようとする人

材

AP-3 実務的経験を基盤とし、さらに高度な知識や理論を習得することで、自らの研究成果を社会に発信することを目指そうとする人材

IV. 東洋学園大学大学院学則

目 次

- 第1章 総則
- 第2章 課程、研究科、専攻、学生定員及び修業年限
- 第3章 入学、休学、復学、再入学及び転入学
- 第4章 退学、転学、除籍及び復籍
- 第5章 教育課程及び履修方法等
- 第6章 課程の修了等
- 第7章 外国人留学生
- 第8章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生
- 第9章 検定料、入学金、授業料その他の納付金
- 第10章 職員及び事務組織
- 第11章 研究科委員会
- 第 12 章 賞罰
- 第13章 課外講座
- 第14章 準用規定
- 第15章 学則の変更

附則

別 表1

別 表 2

第1章 総則

(目的)

第1条 東洋学園大学大学院(以下「本大学院」という)は、東洋学園大学の教育精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業等を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

- 第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、前条の教育目的及び社会的使命を 達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び 評価を行うものとする。
 - 2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制については、別に定める。

第2章 課程、研究科、専攻、学生定員及び修業年限

(課程)

- 第3条 本大学院に修士課程を置く。
 - 2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能 力又は高度の専門性が求められる職業等に必要な高度の能力を培うことを目的 とする。

(研究科・専攻)

- 第4条 本大学院に現代経営研究科現代経営専攻(修士課程)を置く。
 - 2 現代経営研究科現代経営専攻は、学部段階における教養教育とこれに裏打ちされた専門的素養を基礎として、経営学分野を中心とした専門性の一層の向上を図ることにより、社会の多様な要請に応えることのできる幅広く深い学識と研究能力に加えて、高度の専門的な職業等を担うために必要な卓越した能力を備えた人材を育成することを目的とする。

(学生定員)

第5条 本大学院の学生定員は次のとおりとする。

 研究科名
 専攻名
 課程
 入学定員
 収容定員

 現代経営研究科
 現代経営専攻
 修士課程
 10
 20

(修業年限及び在学年限)

- 第6条 修士課程の標準修業年限は2年とする。
 - 2 修士課程の在学年限は4年を超えることができない。
 - 3 転入学の場合にあっては、学長が定める在学すべき年数の二倍に相当する年 数を超えることができない。
 - 4 再入学及び復籍の場合にあっては、退学、除籍前の在学年数と通算して4年

を超えることができない。

5 第1項の規定にかかわらず、実務の経験を有する者、又は学部において優秀な成績を修め、本大学院において必要とされる基礎的な学識を有する者であって、昼間と併せてその他の特定の時間において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う場合の標準修業年限は、1年とする。

第3章 入学、休学、復学、再入学及び転入学

(入学の時期)

- 第7条 入学の時期は毎学年の始めとする。
 - 2 前項の他にも、必要と認めた場合は、学期の区分に従い入学することができる。

(入学の資格)

- 第8条 本大学院の修士課程の入学資格者は、次の各号の一に該当する者でなければ ならない。
 - (1) 大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況 について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を 受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するも のに限る。)において、修業年限が三年以上である課程を修了すること(当 該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修す ることにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度にお いて位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて 課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与 された者
 - (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が別に定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (8) 文部科学大臣の指定した者
 - (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と 同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(入学の出願)

第9条 本大学院に入学を志願する者は、所定の書類に検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第10条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

- 第11条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所 定の書類を提出するとともに、所定の学納金を納付しなければならない。
 - 2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(保証人)

- 第12条 学生は本大学院入学時、保証人を届出なければならない。 保証人は、保証する学生の身上について一切の責任を負う。
 - 2 保証人の資格その他については別に定める。

(休学)

- 第13条 病気その他の理由で、引続き2ヵ月以上出席できない者は、学長の許可を得て休学することができる。
 - 2 疾病のため修学することが適当でないと認められた者については、学長は休 学を命ずることができる。
 - 3 学長は、教育上有益と認められた者については、休学することなく、外国の 大学院(学位授与権を有する高等教育機関)又はこれに相当する教育研究機関 等に留学することを許可することができる。なお、当該留学期間に係る在学年 数の取り扱いについては、別に定める。

(休学の期間)

- 第14条 休学期間は、第6条の在学年数に算入しない。
 - 2 前項の休学の期間は、春学期末又は秋学期末を終期とし、通算で2年を超えることは出来ない。

(復学)

- 第15条 休学期間中にその理由が消滅した場合には、学長の許可を得て復学すること ができる。
 - 2 復学の時期は原則として期の始めとする。

(再入学及び転入学)

- 第16条 本大学院に再入学、もしくは他の大学院から転入学を志望する者があるとき は、欠員のある場合に限り、選考の上相当年次に入学を許可することがある。
 - 2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数 の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が 決定する。

第4章 退学、転学、除籍及び復籍

(退学及び転学)

- 第17条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。
- 2 他の大学院へ転学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。 (除籍及び復籍)
- 第 18 条 次の各号の一に該当する者は学長が研究科委員会の議を経てこれを除籍する。
 - (1) 第6条に規定した在学年限を超える者
 - (2) 休学の期間が通算で2年を超え、なお修学できない者
 - (3)長期間にわたり行方不明の者
 - (4)授業料その他納付金を所定の期日までに納めず、督促してもなお納付 しない者
 - 2 前項(4)号により除籍された者が復籍を願い出るときは、選考の上、相当 年次に復籍することができる。
 - 3 前項の規定により復籍を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数 の取り扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が 決定する。

第5章 教育課程及び履修方法等

(教育方法)

第19条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行うものとする。

(授業科目)

- 第20条 本大学院に設置する授業科目の種類、単位数等は別表1のとおりとする。 (単位の計算方法)
- 第21条 授業科目の単位数は、東洋学園大学学則第24条第1項の定めを準用して単位計算するものとする。
 - 2 前項の規定にかかわらず、その学修の成果等を評価して単位を与えることが 適切と認められる授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位 数を定める。

(単位の授与及び学習の評価)

第22条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。学習評価の基準は、S、A、B、C、Dの5段階とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。成績審査の方法は、研究科委員会の議を経て学長が定める。

第6章 課程の修了等

(課程の修了要件)

- 第23条 学生は修士課程修了のため、当該課程に2年以上在学し、在学中に別表1に 定める授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受け た上、修士論文の審査に合格しなければならない。但し、第6条第5項に定め る者の在学期間は、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
 - 2 修士論文の審査及び最終試験については、別に定める。

(他の大学院における授業科目の履修等)

- 第24条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院の定めるところにより他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科委員会の議を経て学長が認めた場合、10単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修により修得した単位とみなし、前条に規定する修了に必要な単位数に含めることができる。
 - 2 前項の規定は、学生が外国の大学院等に留学する場合に準用する。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第25条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、研究科委員会の議を経て学長が認めた場合、入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
 - 2 前項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、転入 学等の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前 条第1項及び第2項により本大学院において修得したものとみなす単位数と 合わせて10単位を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

- 第26条 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。
 - 2 前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。
 - 3 前2項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等に留学し、研究指導を 受ける場合に準用する。

(課程の修了)

- 第27条 学生が、第23条により所定の要件を満たしたとき、学長は研究科委員会の 議を経て課程の修了を認定し、学位記を授与する。
 - 2 修了の時期に関する規程は別に定める。

(学位)

第28条 前条により本大学院の課程の修了を認められた者には、次のとおり学位を授 与する。

課程 研究科名 専攻名 学位

修士課程 現代経営研究科 現代経営専攻 修士(経営学)

2 学位の授与に関し必要な事項は別に定める。

第7章 外国人留学生

(外国人留学生)

- 第29条 外国人が、大学院教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願 するときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。
 - 2 外国人留学生の入学に関しては第8条から第12条の規定を適用する。
 - 3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規程を準用する。
 - 4 その他外国人留学生に関する規程は別に定める。

第8章 科目等履修生、特別聴講学生、研究生

(科目等履修生)

- 第30条 第8条に規定する資格を有する者で、本大学院の特定授業科目につき履修しようとする者があるときは、その授業及び研究を妨げない限り、学長は研究科委員会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。
 - 2 科目等履修生には、本大学院学則第22条の規定を準用して単位を与えることができる。
 - 3 科目等履修生に関する規程は別に定める。

(特別聴講学生)

- 第31条 他の大学院の学生で、当該大学院との協議により、本大学院の授業科目を履 修し単位を修得しようとする者は、特別聴講学生として履修を許可することが ある。
 - 2 前項の規定は、大学院以外の教育施設等との協議により、本大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。
 - 3 前 2 項の規定は、外国の大学院の学生等で当該大学院等との協議により、本 大学院の授業科目を履修し単位を修得しようとする場合にも準用する。
 - 4 特別聴講学生に関する規程は別に定める。

(研究生)

- 第 32 条 本大学院において特定の事項について研究することを希望する者があると きは、研究生として、これを許可することができる。
 - 2 研究生に関する規程は別に定める。

第9章 検定料、入学金、授業料その他の納付金

(検定料等の金額)

- 第33条 本大学院の検定料、入学金、授業料その他の納付金については別表2のとおりとする。
- 2 入学金、授業料その他の納付金は所定の期日までに納めなければならない。 (休学及び退学等の場合の授業料等)
- 第34条 休学期間の授業料は半額とし、維持費、施設設備費は徴収しない。但し、休 学した日及び復学した日に属する期分の授業料その他の納付金は全額を徴収 する。
 - 2 前項但書にかかわらず、休学した日に属する期分の授業料その他の納付金を 徴収する場合において、休学した日が学期の開始日であるときは、前項本文の 規定を適用する。
 - 3 学期の途中で退学し又は除籍された者の当該期分の授業料その他の納付金 は徴収する。
 - 4 停学期間中の授業料その他の納付金は徴収する。

(納付金の取扱)

第35条 既に納めた入学金、授業料その他の納付金はいかなる場合も返却しない。但 し、入学時の授業料等納付金については別に定める。

第10章 職員及び事務組織

(職員組織)

第36条 本大学院に、学長、副学長、研究科長、専攻長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長の職務)

- 第37条 学長は、本学を代表し、校務を掌り、所属職員を統督する。
 - 2 学長は、必要に応じ、その職務を補佐する者、若干名を委嘱することができる。

(副学長の職務)

第38条 副学長は、学長の職務を助け、又、学長の命を受けた職務を行う。

(研究科長、専攻長の職務)

- 第39条 研究科長は研究科を代表し、研究科に関する校務を掌る。
 - 2 専攻長は、研究科長を補佐し、専攻に関する校務を掌る。

(教育職員の職務)

- 第40条 教授は、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
 - 2 准教授、講師、助教は、教授に準ずる職務に従事する。
 - 3 助手は、教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

(職員の任用)

第41条 職員の任用は、学校法人の人事規程によって行う。

(事務組織)

第42条 事務の組織及び業務については別に定める。

第11章 研究科委員会

(研究科委員会の構成)

- 第43条 本大学院の研究科に研究科委員会を置き、次の者をもって構成される。
 - (1) 研究科長
 - (2) 専攻長
 - (3) 教授
 - (4) 准教授
 - (5) 講師

(研究科委員会議長)

- 第44条 研究科委員会は研究科長が召集し、その議長となる。
 - 2 研究科長に事故あるときは、研究科長は代理を指名する。

(研究科委員会開会の条件)

第45条 研究科委員会は、構成員の三分の二以上の出席がなければ、開会することが 出来ない。

(研究科委員会の決議)

第46条 研究科委員会の決議は、出席者の過半数の同意による。 賛否同数のときは議 長の裁決による。

(研究科委員会の召集請求)

第47条 研究科長は、構成員の三分の二以上から附議すべき事項を示して研究科委員会の召集を請求された場合、2週間以内にこれを召集しなければならない。

(研究科委員会の審議事項)

- 第48条 研究科委員会は学長が定める次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり 意見を述べるものとする。
 - (1) 専攻及び課程の設置、廃止に関する事項
 - (2)授業科目の編成、変更及び実施に関する事項
 - (3) 学位授与に関する事項

- (4) 単位の授与、研究指導、学位論文の審査及び最終試験に関する事項
- (5) 学生の入学、退学、休学、転学、除籍、復籍、留学及び課程の修了に 関する事項
- (6) 学生の訓育指導及び賞罰に関する事項
- (7) 研究科の教員の選考に関する事項
- (8) 授業科目及び研究指導の担当者に関する事項
- 2 研究科委員会は、学長及び研究科長(以下、「学長等」)が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 第1項第7号及び第8号に基づく教員の人事に関する審議は、研究科長、専 攻長及び教授である委員のみで行う。

(研究科委員会と理事会の関連事項)

第49条 研究科委員会の決議中、理事会所管事項に関連あるものについては、理事会の承認を要する。

(研究科委員会に係るその他の事項)

第50条 研究科長は必要と認めたときは、事務職員その他の者を研究科委員会に列席 させることができる。この列席者は議決権を持たない。

(表彰)

第51条 人物学業ともに優秀で他の学生の模範となる者に対して、学長は研究科委員会の議を経て、これを表彰することがある。

(罰則)

- 第52条 本大学院の規則もしくは命令に従わず、又は学生の本分に反する行為があった者に対して、学長は研究科委員会の議を経て、これを懲戒することがある。
 - 2 前項の懲戒の種類は訓告、停学及び退学とする。
 - 3 前項の退学は次の各号の一に該当する学生に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
 - (2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められた者
 - (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
 - (4) 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反し、本大学院に在学させることが適当でないと認められた者

第13章 課外講座

(課外講座)

第53条 本大学院は、課外講座、公開講座又は講習会等を開催することがある。

第14章 準用規定

第54条 本大学院に関する事項については、この学則等に定めるもののほか、東洋学園大学学則及び諸規程等の定めを準用する。この場合において、「学部」とあるのは「研究科」、「学部長」とあるのは「研究科長」、「教授会」とあるのは「研究科委員会」とそれぞれ読み替えるものとする。

第15章 学則の変更

(学則の変更)

第55条 本学則の変更は、研究科委員会の議を経て理事会が行う。

- 附則1 この学則は平成20年4月1日から施行する。
 - (2) 第6条第5項及び第23条第1項但書の規定は、平成21年4月1日の入学者から適用する。
- 附則2 この学則は平成21年4月1日から改定施行する。
- 附則3 この学則は平成23年4月1日から改定施行する。
- 附則4 この学則は平成24年4月1日から改定施行する。
- 附則5 この学則は平成25年4月1日から改定施行する。
- 附則6 この学則は平成26年4月1日から改定施行する。
- 附則7 この学則は平成27年4月1日から改定施行する。
- 附則8 この学則は平成29年4月1日から改定施行する。
 - (2) この学則は平成29年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお 従前の学則を適用するものとする。
- 附則9 この学則は平成30年4月1日から改定施行する。
- 附則10 この学則は平成30年6月1日から改定施行する。
- 附則11 この学則は平成31年4月1日から改定施行する。
 - (2) この学則は平成31年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、なお 従前の学則を適用するものとする。

別表1. 授業科目・単位数

研究科 専 攻 課 程	区分	授業科目	単位数	必修	選択	必要要件
	科基目礎	経営学研究	4		4	
		マーケティング研究	2	2		基礎研究科目は、 10 単位を修得し
	基礎	アカウンティング研究	2	2		なければならな
	基礎研究科目	ファイナンス研究	2	2		· / `。
	科目	人的資源研究	2	2		
		経営学手法研究	2	2		
		経営管理研究	2		2	基幹研究科目は、 8単位以上を修
		マーケティング戦略研究	2		2	得しなければな らない。
		経営戦略研究	2		2	旦し、「特別講義
		人的資源戦略研究	2		2	I」、「特別講義 Ⅱ」で修得した単
現代経営研究科		財務会計研究	2		2	位は、当該要件単位数には算入さ
経 営 研	基	管理会計研究	2		2	れない。
究科	基幹研究科目	ファイナンス戦略研究	2		2	なお、留学生は、 上記 8 単位に加
		不動産運用設計	2		2	え、「特別講義 I」、「特別講義
現代経営専攻		パーソナルファイナンス	2		2	Ⅱ」、計2単位を
事		リスクマネジメント	2		2	修得しなければ ならない。
修		相続・事業継承設計	2		2	
士課		タックスプランニング	2		2	
程		特別講義I	1		1	
		特別講義Ⅱ	1		1	
	関	ビジネス経済研究	2		2	関連研究科目は、 4単位以上を修
	連研究	連 ビジネス法律研究	2		2	得しなければな らない。
	究科	欧米ビジネス研究	2		2	
	目	中国ビジネス研究	2		2	
	実践	ケーススタディ1 (マーケティング)	2		2	実践研究科目は、 4単位以上を修
	実践研究科目	ケーススタディ 2 (ファイナンス)	2		2	得しなければな らない。
	科 目 	ケーススタディ3 (ヒューマン・リソース)	2		2	
	究課 科題 目研	現代経営特別演習	6	6		課題研究科目は、6単位を修得しなければならない。

別表 2. 検定料、入学金、授業料、その他

イ、検定料30,000 円ロ、入学金200,000 円ハ、授業料700,000 円二、維持費100,000 円ホ、施設設備費100,000 円

学校法人東洋学園の設置する学校を卒業した者、又はその課程を修了した者の学納金は別に定める。

第6条第5項の規定を適用する者の学納金については別に定める。

所定の修業年限を超えて在学する者の学納金は別に定める。

この別表に規定するもののほか、検定料、入学金、授業料その他の納付金の取扱いに関し、必要な事項は、別に定める。

V. 履 修 の 手 引

1. 単位制と課程の修了要件

(1) 単位制と単位計算

単位制とは、本大学院の定める基準に従い授業科目を履修し、それらの試験に合格することにより所定の単位数を修得したときに、修了資格が与えられる制度である。

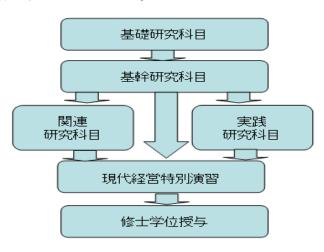
単位は「1単位の授業を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」(大学院設置基準)とし、授業の方法に応じて教育効果、時間外に必要な学修等を考慮して定められている。

本大学院では東洋学園大学大学院学則第 21 条(注参照)のとおり規定している。なお、本学では 90 分の授業をもって 2 時間の授業とする。

- (注①) 東洋学園大学学則第24条第1項の定めを準用して単位計算するものとする。
- (注②) 講義及び演習については 15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
 - ※15 時間の授業で1単位ということは、「45 時間の学修で1単位」という基準を満たす為には、他に30時間の「時間外に必要な学修」(自習)が必要となる。
- (注③) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
 - ※30 時間の授業で1単位ということは、「45 時間の学修で1単位」という基準を満たす為には、他に15 時間の自習が必要となる。
- (注④)(注①)(注②)にかかわらず、現代経営特別演習等の授業科目についてはこれらに 必要な学修等を考慮して単位数を定める。
 - ※これにより「修士論文」が6単位となっている。
- (2) 修了の要件(東洋学園大学大学院学則23条から28条参照)

2. 授業科目の構成と履修モデル

(1) 授業科目の構成は次のとおりである。



○基礎研究科目

主要な職能分野にわたる基礎的知識を習得する科目

○基幹研究科目

志向する職能分野に関する専門的な知識を一層深化させる科目

○関連研究科目

主要な職能分野の専門性を補完し、自己の研究課題と関連付け、研究内容を発展させる科目

○実践研究科目

経営実践現場を想定してのロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなど による体験学習や実践事例の分析による総合的な課題学習を行う科目

○現代経営特別演習

文献調査や実地調査を通じて、専門分野における基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、研究成果に関する修士論文を作成させるための個別指導をおこなう科目

※その他、必要に応じ補習科目を開講する。受講学生については本大学院が指定する。

(2) 履修モデル

選択科目については、マネジメント系(モデルA)、アカウンティング系(モデルB)、ファイナンシャル・プランナー系(モデルC)の3つの履修モデルが用意されている(別表参照)。 各自の研究分野を考慮し適切なコース、科目を選択するのが望ましい。

モデルCは、特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会の「CFP®認定教育プログラム」に対応するモデルで、協会が認める「所定の課程」の単位を取得し、また、協会の認める「提案書課題の作成」講座を受講、修了することにより、AFP資格の認定を受ける権利を得ることが出来る。

また、「所定の課程」の単位を取得することで、AFP 資格認定を経ることなく、CFP®資格審査試験の受験資格を得ることが出来る。

なお、詳細については、「CFP®認定教育プログラム」担当教員より個別に指導を受けること。

**AFP (Affiliated Financial Planner) CFP® (Certified Financial Planner®)

3. 授 業 時 間

時 限	時 間
1	$9:00 \sim 10:30$
2	$10:40 \sim 12:10$
3	$13:00 \sim 14:30$
4	14:40 ~ 16:10
5	$16:20 \sim 17:50$

交通機関の不通と気象警報発令時における授業措置について

- 1 自然災害(台風、地震、大雪等)、事故等により鉄道が不通の場合、気象庁から東京23 区東 部・西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業措 置は、次の通りとする。
 - ① 台風等の自然災害、事故等により鉄道が不通の場合の授業措置 JR の下記路線すべてが全線運行停止の場合 山手、中央、総武、京浜東北、常磐の各路線
 - (1) 始発迄に運行が開始された場合 授業平常通り
 - (2) 午前7 時迄 # 第2 時限より授業
 - (3) 午前10 時迄 # 第3 時限より授業
 - (4) 午前10 時迄に運行されない場合 全日休講
 - ② 気象警報が発令された場合の授業措置

東京23 区東部・西部に暴風、大雪、暴風雪のいずれかの警報または特別警報が発令された場合

- (1) 午前6 時迄に気象警報等が解除された場合 授業平常通り
- (2) 午前7 時迄 # 第2 時限より授業
- (3) 午前10 時迄 " 第3 時限より授業
- (4) 午前10 時の時点で気象警報等が発令中の場合 全日休講
- ③ 大規模地震対策特別措置法に基づく「警戒宣言」が発令された場合の授業措置 首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予測され、大規模地震対策特別措置法に 基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合は、直ちに授業を中止し、以降 の授業を全て休講とする。翌日以降の取扱いは、以下の通りとする。
 - (1) 午前6 時迄に解除された場合 授業平常通り
 - (2) 午前6時までに解除されない場合 全日休講
- 2 オンライン授業は、上記①、②、③の場合であっても原則授業を実施するが、状況により何ら

かの措置が図られる場合は、TG-Navi 等により周知を行う。

3 天候悪化等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合は、大学は原則として前日17 時迄に上記授業措置について、大学ホームページへの掲載およびTG-Navi での通知により周知を行う。なお、交通機関の不通と気象警報発令時以外の場合の授業等に関する措置は、TG-Navi等により周知を行うものとする。

現代経営研究科現代経営専攻修士課程履修モデル

科目区分	科 目 名	配当	単位	モデルA	モデルB	モデルC	摘要
基礎科目	経営学研究	1	4	0	0	0	※修了要件に含まない
	マーケティング研究	1	2	0	0	0	
	アカウンティング研究	1	2	0	0	0	
基礎研究科目	ファイナンス研究	1	2	0	0	®	5科目10単位必修
	人的資源研究	1	2	0	0	0	
	経営学手法研究	1	2	0	0	0	
	経営管理研究	1 • 2	2	0			
	マーケティング戦略研究	1 • 2	2	0			
	経営戦略研究	1 • 2	2	0			
	人的資源戦略研究	1 • 2	2	0			
	財務会計研究	1 • 2	2		0		4科目8単位以上 選択
	管理会計研究	1 • 2	2		0		※「特別講義
基料开 变到 E	ファイナンス戦略研究	1 • 2	2		0		I」、「特別講義 Ⅱ」は上記要件単 位に含まない
基幹研究科目	不動産運用設計	1 • 2	2			®	※留学生は、上記8
	パーソナルファイナンス	1 • 2	2			®	単位に加え、「特別講義Ⅰ」、「特別講義Ⅱ」を修得しなければならない
	リスクマネジメント	1 • 2	2			®	
	相続・事業継承設計	1 • 2	2			®	
	タックスプランニング	1 • 2	2		0	®	
	特別講義I	1	1				
	特別講義Ⅱ	1	1				
	ビジネス経済研究	1 • 2	2		0	0	
用, 中型, 空气, 口	ビジネス法律研究	1 • 2	2	0		0	2科目4単位以上 選択
関連研究科目	欧米ビジネス研究	1 • 2	2	0			
	中国ビジネス研究	1 • 2	2		0		
実践研究科目	ケーススタディ1 (マーケティング)	2	2	0		0	
	ケーススタディ2 (ファイナンス)	2	2		0	0	2科目4単位以上 選択
	ケーススタディ3 (ヒューマン・リソース)	2	2	0	0		
課題研究科目	現代経営特別演習	1~2	6	0	0	0	6 単位必修
	修得単位数			32単位	32単位	34単位	
	本院修了要件単位数				32単位		

4. 試験と成績

(1) 定期試験

定期試験は原則として春学期及び秋学期の授業終了後に期間を定めて実施する。

ただし、科目によっては、定期試験期間以外の日に試験を実施する場合や定期試験に代えてレポートを課す場合がある。

定期試験の実施日程、時間割などの詳細は事前に掲示により発表する。

(2) 追試験

追試験は病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受験できなかった者に対して実施 される試験であり、次のように実施される。

- ①追試験の受験希望者は、「追試験願」を所定の期日までに教務課に提出し、科目担当者の 許可を得なければならない。
- ②「追試験願」には、以下のとおり定期試験を受験できなかった正当な事由を証明する書類 (試験を欠席した日付が確認できること)を添付しなければならない。

欠席理由	欠席理由を証明する書類等
本人の傷病 ※1	医師の診断書又はそれに準ずる書類 (法定伝染病に罹患し出席停止となった期間は公欠とする。)
忌 引	会葬礼状又は死亡診断書(写し) (忌引きの取扱いにより公欠とする。)
交通機関の遅延	交通機関の遅延証明書(駅発行のもの)
交通事故	事故証明書(写し)又は医師の診断書
災害(台風、水害、火災、地震等)	罹災証明書(写し)等、災害の状況が把握できる書類
就職活動 ※2	企業、官公庁等発行の証明書(就職活動の場所・日時を明記し、 社印等が押印されていること)又はそれに準ずる書類
裁判員候補者として呼出しを受けた場合 または裁判員に選任された場合	裁判所が発行する呼出状(写し)又は証明書
その他やむを得ない理由	試験を受けられなかった正当な事由を証明する書類又はそれに 準ずる書類

- ※1 インフルエンザ等の法定伝染病に罹患し出席停止の診断が医師より行われた場合は、大学所定の「診断・ 登校許可証明書」を保健室にて受け取り、医師の証明を受けたうえ提出すること。
- ※2 試験が優先されるので、日程調整のうえ、やむを得ない場合のみ願出ることができる。
- ③定期試験に代わるレポートをやむを得ない理由で期限までに提出できなかった場合も、定期試験欠席と同様に見なし、追試験と同じ手続をとらなければならない。
- ④追試験を受ける者は所定の受験料を納入すること。但し、試験欠席理由が公欠による場合は、受検料の納入は免除される。
- ⑤追試験の点数は原則として得点の 80%とし、対象科目の成績評価基準により成績が決定する。但し、試験欠席理由が公欠による場合は、得点を減じず評価が行われる。
- ⑥追試験の実施日程、時間割など詳しい内容は事前に掲示により発表する。

(3) 再試験

- ①再試験は定期試験を受けた結果不合格となったが、出席時数は満たされている 2 年次での 履修科目が対象となる。
- ②「現代経営特別演習」に関しては、再試験は実施されない。

- ③再試験が許可された科目を受験希望する者は、所定の期日までに手続きを行わなければならない。
- ④再試験を受ける者は所定の受験料を納入しなければならない。
- ⑤再試験による成績の評価は、原則として C ないし D とする。
- ⑥実施日程については、追試験と同時に行なう。従って追試験の再試験は実施しない。

(4) 試験実施要領

- ①試験を受けるには、学生証の提示が必要とされる。忘れた場合は、同一試験期間内において原則として2回まで、教務課で仮学生証の交付を受けることができる。
- ②学生証は机上の見やすい位置に提示する。
- ③試験場では筆記用具と特に指定されたもの以外は使用することはできない。
- ④解答用紙を提出する際には、試験監督者の指示に従わなければならない。試験場退出後に再入室することはできない。
- ⑤解答用紙を提出しなかった者はその期のその試験を放棄したものと見なし、その試験を不 合格とする。その場合の追試験は認められない。
- ⑥試験を遅刻した場合は、20 分以内で、かつ試験監督者の許可を得た場合に限り、受験することができる。それ以外の場合は受験を認めず、欠席と見なされる。
- ⑦欠席(20分を越える遅刻の場合を含む)した場合は、速やかに「追試験願」を教務課に提出すること。
- ⑧試験において、不正行為があったと判定された場合は、その期のその科目は不合格とし、 学則等にもとづいて厳重な処分が課される。

(5) 成績の評価と表示

- ①履修した授業科目の成績評価は下記②の成績評価基準に基づき、各授業科目に設定された 評価方法により、到達目標への達成度を評価するものとする。なお、各授業科目に設定されている到達目標、評価方法は、シラバスを参照すること。
- ②成績の評価は次のように表示される。

合否	成績評価	評価基準		
	S	90~100		
合格 合格	A	80~89		
口俗	В	70~79		
	С	60~69		
不合格	D	~59		

- ③合格の判定を得た後、最終的にその授業科目の単位を修得する。
- ④成績は成績通知書によって、本人に通知する。

(6) 忌引等による欠席

忌引き及び公的行事による欠席であり、その旨を記載した「欠席届」が教務課に提出されている場合は、授業に関して出席扱いとなる。上記事由による試験の欠席については、追試験の実施等に関して特別に配慮される場合がある。

忌引日数は、死亡日から起算した連続日数とし、休業日と重複してもその日数を加算しない。手続には、会葬礼状または死亡診断書(写)等の提出を要する。公欠となる親族の範囲及び公欠となる期間は下記の通りとする。

 父母、配偶者、子
 7日以内

 兄弟姉妹、祖父母
 5日以内

 曾祖父母、叔父叔母、甥姪
 3日以内

課題レポート、論文提出にかかわる諸注意

課題レポート、論文の作成・提出に当たっては以下の点に注意を要する。

- 1. 他の学生のレポート・論文等の内容、表現と同一あるいは酷似する部分を含むレポート・ 論文等が提出され、不正行為と判断された場合、同一あるいは酷似するレポート、論文 を提出した全ての者は不正行為を犯したものと見なされ、当該科目は不合格となるとと もに厳重な処分が課される。
- 2. インターネット上に掲載されている他人のレポート・論文等を複写し、引用元の明示なく、自らのレポート・論文の全てあるいは一部として提出した場合、著作権、知的財産権侵害の不法行為として、当該科目が不合格となるとともに厳重な処分が課される。
- 3. 修士論文の提出後に、上記「1」「2」に該当する不正行為、不法行為の存在が発覚した場合には、研究科委員会による調査、審議に基づき、当該行為を行った者及び責を負うべき関係者に対し、厳重な処分が課される。

5. 修士論文の指導と審査

(1)修士論文指導(研究指導)教員について

- ①修士論文指導(研究指導)は、「現代経営特別演習」の教員が主指導教員となり、副指導教員とともに担当する。
- ②修士論文指導(研究指導)を担当する教員は、論文の内容について指導するだけでなく、 形式に関する規定、提出方法に関する規定を守らせるように学生に指導する。

(2)修士論文に関するスケジュール

スケジュールの概要については下記およびシラバスを参照のこと。

なお、修士論文指導(研究指導)を担当する教員によって各指導時期の調整がなされる場合があるので、担当教員の指示に従うこと。

	1 年 次	
春学期	夏 学 期	秋 学 期
○研究計画書提出	○研究計画書確認	○研究計画書確認
○個別面接指導	○個別面接指導	○個別面接指導
○指導教員確定		○論文中間報告会
		○論文作成
	○文献調査及び実地調査	
	2 年 次	
春 学 期	夏学期	秋 学 期
○個別面接指導	○論文計画書確認	○個別面接指導
○論文計画書提出	○個別面接指導	
○論文作成		
		○論文研究発表会
	○調査研究のまとめ	○論文提出
	○論文作成	○論文審査面接

(3)修士論文の審査について

規定に基づいた形式、提出方法で期限内に提出された修士論文は、主査1名と副査2名の 合議により評価される。

主査は原則として研究指導を担当する主指導教員が、副査 1 名は副指導教員が担当する。

残る副査1名は、主指導教員、副指導教員を除く教員から無作為に決定される。

(4)修士論文審査基準

修士論文の審査基準は以下の通りとする。

- ①テーマの設定は適切か。明確な問題意識のもと、具体的な研究の目的が示されているか。 先行研究のレビューは十分か。理論仮説の導出は適当か。
- ②分析方法は適切か。統計処理、データ解析は妥当か。分析結果は明確で、意味があるか。
- ③考察や理論的解釈は妥当か。オリジナリティーはあるか。従来の研究成果にとどまらず、 新しい成果や解釈が得られているか。
- ④論旨の展開は明確か。引用のルールは守られているか。故意のデータや分析結果の改竄、ないし剽窃はないか。誤字・脱字がなく、文章表現は正確か。注の付け方、図表の挿入の 仕方、参考文献リストの作成は整っているか。

(5) 2024 年度修士論文提出方法・日程について

1. 提出資格

修士論文の提出資格は以下の資格要件を満たしている必要がある。

- (1) 所定単位の修得者、あるいは修得見込みの者であること。
- (2)「修士論文計画書」が提出されていること。
- (3) 修士論文研究発表を行った者であること。

2. 修士論文研究計画書

- (1) 所定の「修士論文計画書」に必要事項を記載し、<u>6月28日(金)</u>までに<u>教務課</u>へ提出すること。
- (2)「修士論文計画書」は主指導教員の指導のもとで作成し、承認印を受けた上で提出しなければならない。
- (3) 修士論文計画書提出以降における論文主題の変更は、8月23日(金)までに申請し、研究科委員会の承認を経た場合にのみ行うことができる。
- (4) 修士論文研究発表会以降における論文主題への副題の追加及び副題の変更は、<u>11 月 15</u> <u>日(金)</u>までに申請し、研究科委員会の承認を経た場合にのみ行うことができる。

3. 修士論文研究発表会

- (1) 研究発表会は上記「修士論文計画書」を提出した者が行うことができる。
- (2) 研究発表会は10月24日(木)に実施する。
- (3) 研究発表会に参加する者は、発表内容について事前に主指導教員の十分な指導を受けた上で発表を行うこと。

(4) 修士論文発表会の実施に関する詳細は別途定める「修士論文研究発表会実施要領」に基づく。

4. 修士論文の提出条件

- (1) 修士論文を提出しようとする者は、所定の期限の内に修士論文の<u>一次提出</u>を行わなければならない。特段の事情があると認められた場合を除き、期限内に一次提出のない者は修士論文の最終提出を行うことができない。
- (2) 修士論文の<u>最終提出</u>に際しては、事前に主指導教員及び副指導教員の許可を得なければならない。
- 5. 修士論文提出期限等
- (1) 提出期限: 一次提出 <u>12月9日(月)</u> 最終提出 1月9日(木) (詳細は別途連絡する)
- (2) 提出受付時間:午後5時まで
- (3) 提出場所:教務課
- (4) 提出期限、提出時間を過ぎた場合は、原則として受理しない。
- (5) 郵送による提出は認めない。代理人による提出は正式な委任状の提出を必要とする。
- (6) 最終提出後の訂正及び修正は原則として認められない。
- 6. 修士論文作成及び提出方法について
- (1) 日本語または英語でA4 横書きとする。日本語の場合は、原則として、<u>横40字、縦30行、</u> <u>片面打ち、フォントの大きさは11ポイントの明朝体</u>による。手書きの場合は、A4 横書 きの原稿用紙を使用すること。英文の場合はダブル・スペースで、ワープロ使用のみと する。
- (2) 字数は、原則として 20,000 字以上とする。
- (3) 修士論文には必ず「修士論文要旨」を添付すること。修士論文要旨はA4 横書き、<u>700 字</u> 程度とする。
- (4) 修士論文は、修士論文提出許可書とともに、正1部、副2部を提出する。
- (5) 修士論文は「表紙」「修士論文要旨」を添付した上で、市販のバインダー(レバーファイル)に綴じて提出すること。綴じ方については以下を参照のこと。

[市販バインダー (レバーファイル) 例]



〔綴じ方〕 〔背表 紙] 表紙 00000000000 ○○○年度 修士論文 (要旨) 目次】 本文 【参考資料】 0000000000 000000 -0000000-東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻 東洋 一郎 東洋 郎

- ※1 正本・副本ともに上図のとおり綴じて提出すること。
- ※2 背表紙は手書きで論題と氏名を記入のこと。
- (6) 論文の目次を作成し(様式自由)、本文の前に綴じること。なお、本文には必ずページ番号を付すこと。
- (7) その他必要な参考資料等は、本文の後に綴じること。
- (8) A4 横書きの表は90 度左に回転させ綴じること。なお、本文中のA4 横書きの表は90 度左に回転させたうえページ番号を下に付すこと。

7. 修士論文審查面接

- (1) 修士論文審査面接は2月初旬に行う。(詳細は別途連絡する)
- (2) 審査面接時には、論文、その他必要な資料を持参すること。

8. 修士論文の審査員

(1) 規定に基づいた形式、提出方法で期限内に提出された修士論文は、主査1名と副査2名の合議により評価される。

主査は原則として研究指導を担当する主指導教員が、副査1名は副指導教員が担当する。残る副査1名は、主指導教員、副指導教員を除く教員から無作為に決定される。

(2) 1名の副査は9月に開催される研究科委員会で決定する。

VI. そ の 他

1. 研究活動上の不正行為防止について

本学を構成する全ての者は、研究活動上の不正行為を防止し、研究活動上の不正行為が行われ、またはその恐れがある場合、厳正かつ適正な対応を図らねばなりません。

本学を構成する全ての者とは役員、教職員及び学生等をいい、学生等とは本学に在学及び 在籍して修学または研究に従事する全ての者をいいます。つまり、学部学生はもとより、本 学大学院で研究活動を行う院生諸君も当然ながら含まれます。

研究活動上の不正行為とは、研究の立案、計画、実施、成果の取りまとめの各過程(修学上 行われる論文作成を含む)において行われる以下の行為をいいます。

【研究活動上の不正行為】

- (1) 捏造 存在しないデータ、研究結果等を作成すること。
- (2) 改ざん 研究資料、機器、過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られたデータ、研究成果等を真正でないものに加工すること。
- (3)盗用 他の研究に携わる者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究に携わる者の了解若しくは適切な表示な く流用すること。
- (4) 研究費の不適切な使用

物品購入に係わる架空請求、不当な旅費の請求、実態と異なる謝金の 請求、その他公募型の研究資金を配分する機関の定めなどに違反して 研究費を使用すること。

万が一、上記のような不正行為がなされている、あるいは、なされる恐れがあると認識した場合には、通報・相談窓口である法人本部企画部に通報・相談して下さい。

【通報・相談窓口連絡先】

法人本部企画部 本郷校舎1号館8階

電話: 03 (3811) 1731

mail: kikaku-announce@tyg.jp

2. 1号館7階(大学院生フロア)の使用について

本郷校舎1号館7階には、大学院学生が授業で使用するゼミ教室の他に、大学院学生の専 用施設として次のものが設置されています。

- (1) 院生研究室 研究活動を行うためのデスク、PC、プリンター等を設置しています。
- (2)院生ロッカー 大学院学生の個人所有物を保管するため貸与するものです。

利用については、以下の注意事項を遵守して下さい。

【注意事項】

- ①院生研究室は共有スペースなので、個人の所有物を放置しないようにして下さい。
- ②院生研究室内での飲食は禁じます。
- ③校舎内は、喫煙所以外での喫煙は厳禁となっています。
- ④院生研究室内での私語は他の院生の迷惑にならぬよう注意して下さい。
- ⑤PC、プリンター、コピー機等の備品取扱には十分注意のこと。マシントラブル等については、法人本部(1号館8階)まで連絡のこと。
- ⑥コピー機は、7階院生談話室内のコピー機をご利用ください。
- ⑦院生ロッカーには貴重品は保管せず、常時施錠するよう注意して下さい。
- ⑧院生ロッカーは貸与するものなので、鍵の管理には十分注意して下さい。万が一、紛失等の場合には、総務課(1号館1階)まで申し出て下さい。
- ⑨教員研究室、講師控室、教材作成室、コピーコーナー(教員用)、給湯室等の教員専用スペースには教員の承諾なく入室することができません。
- ⑩喫煙所、トイレ等の教員との共用スペースの使用にあたっては、マナーに気をつけ使用して下さい。

学事日程

-2024年4月1日(月)~2025年3月31日(月)-

【春学期】

4月 2日(火)	入学式
4月 3日(水)~4月9日(火)	オリエンテーション・健康診断期間
4月10日(水)	春学期授業開始日
5月 日(水)	創立記念日
5月 2日(木)	全学休業日
7月 6日(土) · 7月13日(土)	補講
7月26日(金)	春学期授業終了
7月27日(土) ~7月31日(水)	春学期定期試験
8月 日(木)~9月8日(日)	夏季休業
8月11日(日) ~ 8月18日(日)	大学一斉休業日
8月26日(月)	春学期追再試験

※祝祭日の4月29日(月)、5月6日(月)、7月15日(月)は授業を行う。

【秋学期】

9月 9日(月)~9月12日(木)	オリエンテーション期間
9月13日(金)	秋学期授業開始日
10月12日(土)~10月13日(日)	フェニックス祭
12月23日(月)	年内最終授業日
2 月 26 日(木) ~ 月 4 日(土)	大学一斉休業日
I 月 8日(水)~I 月9日(木)	補講
I 月 IO 日(金)	授業再開
I 月 20 日(月)	秋学期授業終了
I 月 2 I 日(火) ~ I 月 24 日(金)	秋学期定期試験
2月 日(土)~3月3 日(月)	春季休業
2月22日(土)・25日(火)	秋学期追再試験
3月20日(木)	卒業式

※祝祭日の9月16日(月)、9月23日(月)、11月4日(月)は授業を行う。 ※10月11日(金)、10月14日(月)、1月17日(金)は全学休講日とする。

2024 年度 シラバス

現代経営研究科現代経営専攻 (修士課程)

区区	·	基礎研	空科目	科 目	マーケ	ティング研究	担当者	東洋学園大学		
分	1	<u></u>		名	7 7 7 4 7 4 7			1307 TV 1100		
	開	講期	間	春学期	l l	選択・必修の別	必修			
	配	当 年	次	1年		単 位 数	2 単位			
		業形	態	講義和	∤	ナンバリング	8MK0	G-201		
_,o		経験の有] +## II	日本がなる事題	たのいての甘放的知識	の仮俎			
			における教育			についての基礎的知識				
講義の目的・内容 到達目標	を									
評価の方法・基準	以上: S:90·	を次の評価	基準に則り総)-89 B:70-79	合的に評価	価する。 9 D:60 未満		.10%)Ø 3 ³	項目により総合的に評価する。 出版社		
7	No	1. 3.10.1	教科書名	- , , 2Wh	著者	ISBN		出版社出版年		
テキスト	1	すっきりた	かる マーケラ	アイング戦	略 限本純・村中均	978-4-8309-5202-9		文眞堂 2023		
<u>۲</u>	2									
参考文献等	多考書; 慶應義塾大学ビジネス・スクール編 嶋口充輝他著(2004)「マーケティング戦略」有斐閣 ISBN 978-4641053823 その他の参考書については、クラスの講義内容に合わせて随時紹介していく。									
を授業の関連性実務経験の概要										

	ナ 胆	भग सन	事前学習	吐用	事治, 事体学现
	主題	概要	事後学習	時間	事前・事後学習
1	マーケティングとは何 か	授業の概要、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについてガイ ダンスする。 導入授業としてマーケティングとは何かについて解説する。	事前学習	2	マーケティングという言葉の意味を事前に調べ、シラバス記載の授業の構成や内容に関して用語等を調査して意味を理解しておく。教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
			事後学習	2	事後は次回の授業に向けて配布資料等見返 し、本科目の講義内容を理解する。
	マーケティングの方向	企業理念とビジョン、市場分析、企業	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
2	性の選択	ドメイン	事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	市場細分化	セグメンテーションの基準と手法	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
3			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	ターゲティングとポジ	ターゲティングの手法、ポジショニン	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
4	ショニング	グと差別化	事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	製品戦略(1)	新製品開発と製品ライフサイクル	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
5			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	製品戦略(2)	ブランディングとブランド拡張	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
6			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	価格戦略(1)	価格設定の基本的なアプローチ、価	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
7		格弾力性	事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	価格戦略(2)	価格設定、価格調整戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
8			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	流通戦略(1)	流通機能と流通形態	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
9			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	流通戦略(2)	流通チャネルの設計と管理	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
10			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	販売促進戦略(1)	広告、パブリシティ、人的販売、セー	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
11		ルスプロモーション	事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	販売促進戦略(2)	新たなコミュニケーション、インターネ	事前学習	2	教科書該当章を輪読して授業に臨むこと。
12		ットマーケティング、オピニオンリーダ ーと電子ロコミ	事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
10	ケース分析	消費者理解のためのマーケティング の実践、発表、討議	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
13			事後学習	2	受講後は配布資料、授業資料を復習すること。 教科書および関連する参考書の該当章を読み 理解を深めること。
	期末課題プレゼンテ ーション	期末課題に関する発表	事前学習	2	効果的なプレゼンテーション資料を作成するた めの事前学習を行うこと。
14			事後学習	2	受講後は講師に指摘された点や改善点に関する内容を復習すること。 関連する参考書を読み 理解を深めること。
15	総括;これからのマー ケティングの方向性	これまでの授業内容の総括。 期末レポートの提出	事前学習	2	これまでの授業で学んだ概念について復習することで、この回の予習とする。
15			事後学習	2	受講後はこれまでの配布資料や教科書を復習 すること。関連する参考書の該当章を読み理解 を深めること。

区分	基	。 磁研	究科目	科目名	アカウン	ティング研究	担当者	藤野	雅史	
		講期	間	春学	期	選択・必修の別	必修			
		当 年	次	1年		単 位 数	2 単位			
	授業形態講義科目ナンバリング8ACC-201実務経験の有無									
ディブ				日梅	租件的な経営課題	についての基礎的知識	の修得			
	ィプロマポリシー(DP)における教育目標 現代的な経営課題についての基礎的知識の修得 (アー1) 主要な職能分野にわたる基礎知識を習得する。									
講義の目的・内容				·			1			
到達目標					TG-Navi より	確認のこと				
評価の方法・基準										
	No		教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年	
テキスト	1									
卜	2									
参考文献等	3									
と授業の関連性実務経験の概要										

)(// J == / ()
	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前・事後学習
			事前学習		
1			事後学習		
			事前学習		
2			事後学習		
			事前学習		
3			事後学習		
			事前学習		
4			事後学習		
			事前学習		
5			事後学習		
_			事前学習		
6			事後学習		
			事前学習		
7			事後学習		
8			事前学習		
0			事後学習		
9			事前学習		
3			事後学習		
10			事前学習		
10			事後学習		
11			事前学習		
- 11			事後学習		
12			事前学習		
			事後学習		
13			事前学習		
			事後学習		
14			事前学習		
			事後学習		
15			事前学習		
15			事後学習		

							果	学園大学		
区分	<u> </u> <u>‡</u>	基礎研究科目	科 目 名	ファイ	ナンス研究	担当者	 富田 洋 	介		
	開	講期間	秋学期		選択・必修の別	必修				
	配	当 年 次	1年		単 位 数	2 単位	L.			
		業形態	講義科目		ナンバリング	8CM	M-201			
		経験の有無	実務経験		アのリイの甘畑的知識	の 仮知				
		リシー(DP)における教育 ・ポリシー(CP)上の位置つ			についての基礎的知識 分野にわたる基礎知識					
講義の目的・内容	財務部に就職した際に、根幹を成す学問である。習得する内容は高度ではあるが、初学者であっても理解しやすい丁寧な講義を心がける。ファイナンスの基礎には経済学的な知識が必要となるため、経済学の復習をお願いしたい。 講義の特色 基本的にテキストを用いて講義を進める。テキストの精読は学生の課題とし、講義では疑問点や重要点について解説する。									
到達目標	2)ビ	1)ファイナンスの基礎について習得し、その根本理論を習得すること。 2)ビジネスにおけるファイナンスについてその基礎部分は理解をすること。 3)ファイナンスにかかわる簡単な数理計算ができるようになること。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。								
評価の方法・基準	履修 評価 下記	への積極性 50% (課題お 者人数や講義形態によっ	て変更する可	能性があるが、変	% 更がある場合には講義内にて。	必ず連絡	する。			
	No	教科書名	1	著者	ISBN		出版社	出版年		
テキスト	1	ビジネスマンのためのフ	アイナンス入門	山澤光太郎	978-4492653401		東洋経済新報社	2004		
スト	2									
	3									
参考文献等	参考	文献は講義中に適宜指え	ヾする。							

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前·事後学習
1	イントロダクションと ファイナンスの世界 について	講義の進め方、ファイナン スの概略について解説す る。	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入を すること。また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で 良いので目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	キャッシュフローに ついて	企業活動とキャッシュフロ ーについて解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	投資に関する理論	割引現在価値などについて学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	証券投資に関する 理論と市場の効率	ポートフォリオ理論につい て学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	性工	Mars I. Was the STI free	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	証券投資に関する 理論と市場の効率	資本資産評価モデル (CAPM)について解説す	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	性Ⅱ	5.	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	企業価値評価	加重平均資本コストについて解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	人坐の見泣次士様	10(四次十十) 72 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
7	企業の最適資本構成と配当政策 I	MM 理論を中心に学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 ************************************
	人类の見法次士排	ペッキングオーダー理論と	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
8	企業の最適資本構成と配当政策 II	配当政策を中心に学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	資本市場に関する	株価の決定に関する理論	事後学習	2	講義的での補足説明などを自分自身で発達し、研先に反立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重
9	理論と実務I	を中心に解説する。	事前学習	2	要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	資本市場に関する	債券価格の決定理論や金	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	理論と実務Ⅱ	利の期間構造について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必すテキストを熟読しておくこと。重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	デリバティブの理論	先物取引とスワップ取引を	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重
11	と実際Ⅰ	中心に解説する。	事前学習	2	要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	デリバティブの理論	オプションについて学習	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重
12	と実際Ⅱ	する。	事前学習	2	要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	コーポレート・ガバ	エージェンシー理論につ	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重
13	ナンス	いて解説する。	事前学習	2	要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	ジャンク債について	投資不適格債の需要につ	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重
14	, , , , , , ,	いて議論する。	事前学習	2	要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	最近のトピックス	天候デリバティブ、自己資	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。重
15		本比率規制、行動ファイナンスについて触れる。	事前学習	2	要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
			事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

									米	沣字園 大字	
区分	Ž	基礎研究	究科目	科目名	人的	資源研究		担当者	横山	和子	
	開	講期	間	春学	期	選択・必	な 修 の 別	必修			
	配	当 年	次	1年		単位	立 数	2 単位	Ĺ		
	授	業形	態	講義		ナンバ	リング	8MA	V-201		
	実務	务経験の 有	育無		経験該当科目						
ディブ	ディプロマポリシー(DP)における教育目標 現代的な経営課題についての基礎的知識の修得										
カリキ	トュラム	・ポリシー(CP)上の位置へ	がけ	CP-1 主要な職能	分野にわたる	る基礎知識を	と習得る	する。		
講義の目的・内容	義の目であり、そのバックグラウンドや意義を探求する。取り上げるテーマは次のとおりである。取り上げるテーマは次のとおりである。(1)人的資源管理の位置づけ(基礎理論、人間モデル、組織設計)内(2)人事制度										
到達目標	(1)人的資源管理論の基礎理論を理解できるようになる (2)人的資源の特殊性を理解できるようになる (3)人的資源の採用から退職までのフローを理解できるようになる (4)人的資源に対する評価の考え方を理解できるようになる (5)多様な人的資源の活用の意義と課題を理解し、自身の考えを言語化・文章化することができるようになる										
評価の方法・基準	ディン (2)評	価基準			%、 小課題 30%、期末 C:60∼69 D:60 未満	ミレポート 50%	により評価する	do			
	No		教科書名		著者		ISBN		出版社	出版年	
テ	1	経験から	学ぶ 人的資	源管	上林憲雄·厨子直之·森	田雅也	978-4-641-184	139-8	有斐閣	2019	
テキスト		理〔新版〕									
 	2										
	3										
参考文献等											
と授業の関連性実務経験の概要	国際	公務員とし	ての実務経験(こ基づき	、多様な職場での仕事の	の進め方を展開	する。				

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前·事後学習
	人的資源管理とは:人的 資源管理の役割を考える	授業の進め方、事前・事後学 習について解説する。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人的資源、マネジメント、人的資源管理、人事労務管理、戦略的人的資源管理
1		人的資源管理の基本と全体 像について考える。	事後学習	2	テキスト 24 ページ、演習 2 日本企業のウェブサイトにアクセスし、人のマネジメントを扱う部署の呼称で 「人事部」以外にどういった呼称があるか調べ、レポートとして提出すること。
2	人間モデルと組織行動: 組織は人をどのようにつく るのか	人的資源管理の対象である 人間の捉え方を理解し、それ ぞれの人間観に基づく管理	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人間モデル、経済人モデル、科学的管理法、社会人モデル、ホーソン実験、 自己実現モデル、動機づけ
۷		の仕組みについて考える。	事後学習	2	テキスト 50 ページ、演習 1 経済人モデル、社会人モデル、自己実現モデルのそれぞれにおいて、「賃金」という要素がどのように位置づけられているか整理し、レポートとして提出すること。
	組織設計:人の働く組織 をどのようにつくるか	人的資源管理を有効なものと するための組織的な仕組み	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 組織設計、組織構造、分業、調整、権限、管理の幅、職務設計
3		や規則などを概観し、仕事の 進め方とマネジメントのあり方 について学ぶ。	事後学習	2	テキスト 72 ページ、演習 2 あなたの所属しているサークル活動、またはアルバイトの職場で、どのような役割 分担(分業)があるか調べ、それぞれの役割分担が組織全体でどのように調整さ れているか、相互のコミュニケーション、権限関係、公式化の 3 点に着目しレポ ートとして提出すること。
4	採用・配置:組織は人をど のように雇い入れるのか	新卒者・転職者の採用や配 置の問題を取り上げ、人と職 務のマッチングについて学	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 人材フロー、コンビテンシー面接、インターンシップ、出向と転籍、タレント・マネ ジメント、職種別採用、社内公募制
4		. <i>š</i> .,	事後学習	2	テキスト 99 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の採用や移動の方法を調べ、組織や個人にとって どういうメリットやディメリットがあるか調べ、レポートとして提出すること。
	キャリア開発・人材育成: 組織は人をどのように育	企業内人材育成を体系的に 理解する。また、コーチング	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 OJT, Off-JT,自己啓発、自律型キャリア、サクセション・プラン、コーチング
5	てるのか	やメンタリングなどの手法に ついて学ぶ。	事後学習	2	テキスト 124 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の人材育成の仕組みを調べ、短期的な業績と長期的な 業績にそれらがどのように貢献しているかを分析し、レポートとして提出すること。
6	評価・考課:組織は仕事 の結果をどのように評価 するのか	評価者と被評価者の両面から評価の問題を取り上げる。 評価の基準を知り、被評価者	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 評価基準、目標管理、評価エラー、手続き的公正、多面評価、パフォーマンス・マネジメント
ь		の納得性を高めるための取り 組みについて学ぶ。	事後学習	2	テキスト 151 ページ、演習 1 人事評価の基準の種類と特徴を整理し、最近の日本企業で人事評価の基準が どのように変化しているかについて、レポートにして提出すること。
7	昇進・昇格:組織は人をど のように処遇するのか	職能資格制度をベースとした 人事制度について学ぶ。ま た、役割等級制度など比較	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 職能資格制度、資格、昇格、昇進、重層型昇進構造、職務等級制度、役割等級 制度、ファスト・トラック
•		的新しい制度への理解を深 める。	事後学習	2	テキスト 177 ページ、演習 1 年功型労務管理が行われていた頃の昇進の在り方について、強みと弱みを整理 し、レポートとして提出すること。
8	賃金・福利厚生:組織は 人にどのような報酬を与え るのか	賃金体系を理解し、近年にお ける成果の捉え方とその問題 点について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 報酬、賃金形態、賃金体系、役割級、カフェテリア・ブラン、グローバルで統一か した仕事基準賃金
Ü			事後学習	2	テキスト 205 ページ、演習 2 アルバイト先や勤務先の賃金体系を調べ、どのようなメリットとディメリットがあるか 分析し、レポートとして提出すること。
	安全・衛生:組織は人の 安全と健康をどのように守 っているのか	OSHMS(労働安全衛生マネ ジメントシステム)の構築に向 けた視点とメンタルヘルスの	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 就業条件管理、リスクマネジメント、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、 メンタルヘルス、ハラスメント
9		取り組みについて学ぶ。	事後学習	2	テキスト 228 ページ、演習 2 「健康経営銘析]選定企業 (http:www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcaare/kenko_meigara.html) に中から、自分が関心のある企業を選び、その取り組みをまとめ、レポートとして 提出すること。
10	労使関係:組織は労働組 合とどのように関わるのか	集団的労使関係と個別的労 使関係の現状と課題につい て学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 労使関係と労資関係、労働三権、企業別組合、労資協議制、労資関係の個別化 テキスト 250 ページ、演習 1
10			事後学習	2	日本の労働組合の特徴と直面している課題について論じ、レポートとして提出すること。
11	退職:組織は辞めていく 人とどのように関わるのか	定年制と雇用調整の現状と 課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 定年制、解雇、早期退職、雇用調整、リテンション・マネジメント
		△ 安 如 (体) テよいよフ ↓ ++ ∩ 夕	事後学習	2	テキスト 275 ページ、演習 1 定年制の機能とその現状を調べ、レポートとして提出すること。
12	女性労働・高齢者雇用: 多様化する働く人たちを 組織はどう管理するか	企業組織における人材の多様性を活かすための取り組み とその課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる、授業時に確認を行う。 女性労働、男女雇用機会均等法、M 字型労働曲線、ポジティブ・アクション、高 齢社会、高年齢者雇用、継続雇用制度 テキスト 306 ページ、演習 1
			事後学習	2	日本企業における女性および高齢者のマネジメントの方向性について調べ、レポートとして提出すること。
13	非正規雇用:多様化する 雇用形態を組織はどう管 理するか	雇用形態の多様化の現状を 理解し、企業活動における活 用とその課題について学ぶ。	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 雇用形態、均等処遇、人材ポートフォリオ、限定正社員 テキスト 331 ページ、演習 1
10			事後学習	2	無限定正社員、限定正社員、非正社員の違いを説明し、非正社員の種類と特徴を整理し、レポートとして提出すること。
1.4	裁量労働・在宅勤務:多 様化する労働時間と場所 を組織はどう管理するか	人的資源管理における時間 と場所の概念を理解し、自律 的な働き方の可能性と課題	事前学習	2	次の用語の定義を調べる。授業時に確認を行う。 法定労働時間、所定労働時間、フレックス・タイム制、裁量労働制、ICT,在宅勤務
14	を組織はどう管理するか	的な働き方の可能性と課題 について学ぶ。	事後学習	2	デキスト 358 ページ、演習 3 労働者が自分で労働時間や働く場所を決められることは企業や個人にとって良いことでしょうか。プラス面とマイナス面を考察し、レポートにまとめ提出すること。
15	レポート発表	レポート課題について発表す る	事前学習	5	発表レポート、プレゼンテーション準備。
10			事後学習	2	他の受講生の発表、自己の発表の振り返りを行う。

							木 /十一图 /	
区分	į	基礎研究科 目	科目名		兰手法研究	担当者	未定	
	開	講期間	秋学	期	選択・必修の	別 必修		
		当 年 次	1年		単 位 数		Ī.	
		業形態	講義	利日	ナンバリン			
		<u>未 ル 恩</u> 務経験の有無	叶报/	11 11		OWIAI	1 202	
				구다 기자 사는 구시 살고 쓰시는데 단점	リストン・イの流り、知ざ	かる 1年7日		
		リシー(DP)における教育			についての深い知識			
カリキ	テュラム	・ポリシー(CP)上の位置へ	がけ	CP-1 主要な職能	分野にわたる基礎知	コ識を習得す	「る。	
講義の目的・内容			T T		310 2 1	l		
			Т	TG-Navi より確	認のこと			
到								
達								
目								
標								
/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /								
評価の方法・基準								
法								
基								
準								
	No	教科書名		著者	ISBN		出版社 出	版年
テ		秋川首名		有日	13DIN		П/КТ П	/WT
テキスト	1							
<u>^</u>	2							
	3							
					1		ı	
去								
参考文献等								
文								
歌								
.,								
と授業の関連性実務経験の概要								
授務								
来栓の験								
関の								
理 慨 性 要								
				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				

主題 概要						水 /十1四八1
The state of th		主題	概要		時間	事前・事後学習
2 事的学習 3 事的学習 事的学習 事後学習 10 事的学習 11 事的学習 12 事的学習 13 事的学習 14 事的学習 15 事的学習						
3 事後学習 事前学習 事前学習 事後学習 事務学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後	1			事後学習		
事後学習	9			事前学習		
Ban	2			事後学習		
4 事(安智 事) 5 事前学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後	3			事前学習		
\$\begin{align*} \begin{align*} \b	3			事後学習		
事後学習 事的学習 事後学習 事的学習 事後学習 事的学習 事的学習 事後学習 事的学習 事後学習 10 事前学習 事後学習 11 12 事前学習 13 14 事前学習 事前学習 事務学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	4			事前学習		
事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学	4			事後学習		
5 事後学習 9 事前学習 10 事的学習 11 事的学習 12 事的学習 13 事的学習 14 事的学習 15 事的学習 事的学習 事後学習 事務学習 事務学習	_					
6 事前学習 7 事前学習 8 事前学習 9 事前学習 10 事前学習 事後学習 事後学習 11 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習	5					
7 事後学習 8 事前学習 9 事前学習 10 事前学習 11 事前学習 12 事前学習 13 事後学習 14 事前学習 15 事前学習	_					
事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事的学習 事後学習 事的学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事務学習 事務学習 事務学習 事務学習 事前学習	6			事後学習		
事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 10 事前学習 事後学習 12 事前学習 事務學習 事務學習 事前学習 事務學習 事務學習 事務學習 事前学習 事前学習 事前学習	7					
事後学習 事前学習 事後学習 10 事前学習 事前学習 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 事前学習 事前学習	1			事後学習		
事後字習 事前学習	8					
事後学習 事前学習	0			事後学習		
事後字習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	0			事前学習		
10 事後学習 11 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習	Ð					
11 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習 15 事前学習	10					
11 事後学習 事前学習 事後学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習	10					
事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	1.1			事前学習		
12 事後学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習 15 事前学習	11			事後学習		
事後字首 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習	10			事前学習		
事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	12			事後学習		
事後字首 事前学習 事後学習 事前学習	1.0			事前学習		
14 事後学習 事前学習	13					
事後字習 事前学習	1.4			事前学習		
	14			事後学習		
事後学習	1.5			事前学習		
	15			事後学習		

区分		基幹	研究	智科目	科目名	経営	管理研究	担当者	赤尾	充哉
	開	講	期	間	秋学	 期	選択・必修の別	選択		
	配	当	年	次	1年		単 位 数	2 単位	芷	
	授	業	形	態	講義	科目	ナンバリング	8MA1	V-203	
	実	務経 縣	食の有	無						
ディフ	。ロマス	ポリシー	-(DP)\	こおける教育			についての深い知識の			
カリュ	1			CP)上の位置へ		CP-2 細分化される 企業理論を学ぶ。	た職能分野に関する専門	月的知言	哉を習得する。 □	
講義の目的・内容	企業理論を理解し、現実の経営管理の問題を理論的に考察できるようになる。									
到達目標										
評価の方法・基準	授業への参加度 50%、発表の出来 50% S:90~100 A:80~89 B:70~79 C:60~69 D:60 未満									
	No			教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年
テキ	1									
アキスト	2									
	3									
参考文献等	1			=スクルーダー の関心に従っ [~])経済学入門』文眞堂、2 紹介する	007 年			
と授業の関連性実務経験の概要										

	ナ 胆	₩ 	事前学習	n+: 88	中华 中沙公园
	主題	概要	事後学習	時間	事前•事後学習
1	ガイダンス・導入授業	シラバスに基づいて学習 内容を理解する	事前学習	2	自身の関心領域について整理す る
1			事後学習	2	自身の関心領域と本講義の関連 性を整理する
	市場と組織	市場と組織という2つの	事前学習	2	教科書を精読する
2		制度の違いを理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	市場	市場のメカニズムについ	事前学習	2	教科書を精読する
3		て理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	情報	市場と組織の情報問題に	事前学習	2	教科書を精読する
4		ついて理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	ゲーム理論(1)	ゲーム理論から得られる	事前学習	2	教科書を精読する
5		示唆について理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	ゲーム理論(2)	ゲーム理論から得られる	事前学習	2	教科書を精読する
6		示唆について理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	企業の行動理論	組織行動の理論を理解す	事前学習	2	教科書を精読する
7		<u>る</u>	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	エージェンシー理論	エージェンシー理論による	事前学習	2	教科書を精読する
8	(1)	組織の説明を理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	エージェンシー理論	エージェンシー理論による	事前学習	2	教科書を精読する
9	(2)	組織の説明を理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	取引費用の経済学(1)	取引費用理論による組織	事前学習	2	教科書を精読する
10		の説明を理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	取引費用の経済学(2)	取引費用理論による組織	事前学習	2	教科書を精読する
11		の説明を理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	戦略経営への経済学	経済学のアプローチから	事前学習	2	教科書を精読する
12	の貢献	戦略を理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	組織の経済学(1)	組織の経済学を包括的に	事前学習	2	教科書を精読する
13		理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
	組織の経済学(2)	組織の経済学を包括的に	事前学習	2	教科書を精読する
14		理解する	事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する
15	まとめ	学習した内容を再度検討 する	事前学習	2	各自の研究に沿って、14回まで に学んだ事項を整理する
10			事後学習	2	議論を踏まえて、自身の研究に 沿って整理する

									术/十二	子 图人子
区分	2	基幹	研究	党科目	科目名	マーケティ	アング戦略研究	担当者	隈本 糸	屯
	開	講	期	間	秋学	期	選択・必修の別	選択		
	配	当	年	次	1年		単 位 数	2 単位	Ĺ	
	授	業	形	態	講義	科目	ナンバリング	8MK0	G-202	
	実績	务経懸	食の有	ī無				-		
ディフ	プロマボ	ミリシー	-(DP)	における教育	目標	現代的な経営課題	についての深い知識の	修得		
カリコ	チュラム	・ポリ	シー((CP)上の位置へ	づけ (CP-2 細分化され	た職能分野に関する専門	門的知 詞	戦を習得する。	
講義の目的・内容	表のクラスを前近に顧客との反対的、極続的が、多数分向の関係性が重視されること、ケレンコンシット、ケック・トゥック(Offe to Offe)、ケックトゥック・トゥック・トゥック・トゥック・トゥック・トゥック・トゥック・トゥッ									
到 達 目 標	** ② さらに、そうした論文の形式、手法、貢献等をふまえて、展開された理論や概念モデルを自らの修士論文で引用できる、あるいは参考とできるようになることを目的とする。									
評価の方法・基準	総合	的に記	平価す	-る。		期末レポート(40%)の3 69、D:60 未満	項目により総合的に評価する。	, 以上を必	次の評価基準に則り	
	No			教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年
テキ	1									
テキスト	2									
	3									
		(-1-).1.	 	おいた油下	₩	ン次业」 ジェフナ・シュ				
参考文献等)資料が配布される。 講義内容に合わせて随い	時紹介していく。			
と授業の関連性実務経験の概要										

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前•事後学習
1	ガイダンスと導入授業	授業の概要、学習目標、成績 評価方法、受講のルールなど についてガイダンスする。 導入	事前学習	2	マーケティング関連の著名なジャーナルについて 事前に調べ、シラバス記載の授業の構成や内容 に関して理解しておく。
-		授業としてマーケティング分野 の主要なジャーナルについて 解説する。	事後学習	2	次回の授業に向けて配布資料等見返し、 本科目の講義内容を理解する。
	製品志向時代の論考分析	1960 年代までの主要な論文を	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
2	(1)	読む	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	製品志向時代の論考分析	1960 年代までの主要な論文を	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
3	(2)	読む	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	販売志向時代の論考分析	1970 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
4	(1)	む	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	販売志向時代の論考分析	1970 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
5	(2)	t	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	顧客志向時代の論考分析	1980 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
6	(1)	む	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	顧客志向時代の論考分析	1980 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
7	(2)	to	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	関係性志向時代の論考分	1990 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
8	析(1)	む	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	関係性志向時代の論考分	1990 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
9	析(2)	to to	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	 社会志向時代の論考分析	2000 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
10	(1)	む	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	 社会志向時代の論考分析	2000 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
11	(2)	さ と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。関連するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	 自己実現志向時代の論考	2010 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
12	分析(1)	2010年代の主奏な皿文を記む	事後学習	2	母に聞える無助しては来に騙むこと。 受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	 自己実現志向時代の論考	 2010 年代の主要な論文を読	事前学習	2	9 67 一マの他の論义を読み理解を保めること。 指定論文を輪読して授業に臨むこと。
13	日 C 美	2010 年1(の主要な論文を説 む	尹刑于自		毎に調えを細がして交来に臨むこと。 受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連
10			事後学習	2	するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
	自己実現志向時代の論考	2010 年代の主要な論文を読	事前学習	2	指定論文を輪読して授業に臨むこと。
14	分析(3)	t	事後学習	2	受講後は授業での討議内容を復習すること。 関連 するテーマの他の論文を読み理解を深めること。
15	総括	総括。期末レポートの提出。	事前学習	2	これまでの授業で学んだことについて復習することで、この回の予習とする。
19			事後学習	2	受講後はこれまでの配布論文を復習すること。 関連する論文を読み理解を深めること。

						果洋学園大学		
区分	基幹研究科目	科目名	経営	戦略研究	担当者	李 新建		
	開講期間	春学	期	選択・必修の別	選択			
	配 当 年 次	1年	A	単 位 数	2 単作			
	授業形態	講義	科目	ナンバリング	8MA	N-205		
デカ	実務経験の有無 プロマポリシー(DP)における教育	日播	租件的か級労運顛	 についての深い知識の(
	トュラム・ポリシー(CP)上の位置・		- , , 	た職能分野に関する専門		************************************		
講義の目的・内容 到達目標	 表の自由的なプールより、企業経営を放わさせるだめの基本的な税点と理論的な料理から自得に重点をおく。 本講義の内容は事例研究を交えながら、経営戦略の基本概念、経営戦略のポジショニング・アプローチ、資源アプローチ、学習アプローチ、一般競争戦略と全社戦略、グローバル統合と現地適応の論理、プラットフォーム戦略などの理論フレームワークの勉強により構成される。受講生の英語力に応じて、経営戦略大家の原著を読み込むことを勧める。事例の選別は別途授業中に指示する。 発表担当者は、配布された教材・資料だけではなく、率先して関連文献をサーベイし、要領よく整理して説明することが求められている。発表を担当していない者は単なる「聞き手」になることのないように、事前に予習ノートを準備し、必ず授業中に質問をすることが求められる。 以下の諸点が本科目の到達目標である。 1. 理論文献の軸読・計議を通じて、経営戦略の基本的なアプローチ・理論的枠組みを深く理解することができるようになる。 2. 経営戦略の理論の進化に関する考察を通して、学術研究の道筋を会得することができるようになる。 3. ケース研究を通じて経営戦略のリアルな課題とその対策に対する理解を深めることができるようになる。 4. 経営戦略の「論理」と「実践」の融合を図ることができる。 							
評価の方法・基準		予習を 40	%、議論への参加度など	する。 どを30%、最終レポートを30% 79 C:60〜69 D:60未満」と				
	No 教科書名	1	著者	ISBN		出版社 出版年		
テキ	1							
テキスト	2							
	3							
参考文献等	 必要に応じてプリントを配布する。 参考文献 P.F.ドラッカー(著), ジョゼフ・A・マチャレロ(編集), 上田 惇生(翻訳), 2012 年, 『経営の真髄: 知識社会のマネジメント(上])』, ダイヤモンド社. マイケル・ポーター 『競争の戦略』 ダイヤモンド社 1995 年。 青島矢一、加藤俊彦 『競争戦略論』 東洋経済新報社 2012 年。 H. Mintzberg, J. Lampel & B. Ahlstrand (原著), 斎藤嘉則等(翻訳)『戦略サファリ』東洋経済新報社 1999。 ジェイB. バーニー 『企業戦略論』(上、中、下) ダイヤモンド社 2003 年。 浅川和宏 『グローバル経営入門』 日本経済新聞出版社 2003 年。 Michael E. Porter, Competitive Strategy, New York: Free Press, 1998。 G. Saloner, J. Podolny & A. Shepard (原著), 石倉洋子(翻訳)『戦略経営論』 東洋経済新報社 2002 年。 							
と授業の関連は実務経験の概要								

	主題	概要	事前学習	時間	事前•事後学習
		11.11	事後学習		V.N. V 200 A
,	経営学と経営戦略論	経営学における経営戦略論の 位置づけ	事前学習	2	事前は関心する企業の経営動向を調べておく。
1		, — , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
2	戦略とは何か	戦略の5つの P	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
2			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
3	企業の目的	企業の真の目的・目標	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
3			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
4	ポジショニング・アプロ ーチ(上)	SCP モデル	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
4			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
5	ポジショニング・アプロ ーチ(中)	ポジショニング・アプローチの 基本的発想と枠組み	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
J			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
6	ポジショニング・アプロ ーチ(下)	ポジショニング・アプローチの 応用と問題	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
0			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
7	事業競争の一般戦略	3 つの一般戦略と「二兎を追 う」戦略の可能性	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
·			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
8	競争戦略のリスク	3つの一般戦略それぞれの落 とし穴とそれに関連する事例	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
0		研究	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
9	全社戦略	全社戦略の考え方と日本企業 の全社戦略	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
Ü			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
10	資源アプローチ	資源アプローチの理論的背景、内容、ポジショニング・アプ	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	W HH	ローチとの比較	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
11	学習アプローチ	組織学習と組織間学習	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	S S ACT NUMBER) (de A)) \	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
12	グローバル経営戦略	グローバル統合とローカル適 応の論理	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	→= .1 → , bulture	プニコフ、) 人坐の4日の	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
13	プラットフォーム戦略	プラットフォーム企業の成長の 論理	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
)	(cr M/ M/mbr of the Arms) M/ 1 2 4	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
14	ケース研究	経営戦略の諸論理を学んだ後の応用的ケース研究。検討す	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
- 1	An A mark to the	るケースに関しては授業中に 別途指示する。	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
15	総合発表と期末レポ ートの提出	期末レポートをまとめ、総括発 表を行う。	事前学習	2	これまでの講義内容や授業中の議論を振り返り、期末レポートをまとめておく。
10			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。

						東洋学[園大字
区分	基幹研究科目	科目名	人的資	源戦略研究	担当者	横山 和子	<u> </u>
	開講期間	秋学	期	選択・必修の別	選択		
	配 当 年 次	1年		単 位 数	2 単位		
	授 業 形態	講義		ナンバリング	8MA	N-204	
	実務経験の有無		経験該当科目	ファーンアの流いを動かり	安 /日		
	プロマポリシー(DP)における教育 キュラム・ポリシー(CP)上の位置			についての深い知識の(た職能分野に関する専『		対する別担子で	
講義の目的・内容 到達目標	大の 内容 上記の内容を踏まえ、次の事項を中心において、講義・討議方式を主体に、事例研究を交えて指導する。 1. 人的資源戦略の検討視点と検討事項に関する事項 2. 経営戦略と人材戦略に関する事項 3. 経営者等個別人材の育成方策に関する事項 4. ビジネス・パーソンのキャリア開発に関する事項 5. グローバルなキャリア開発に関する事項 授業では、テキストの指定された箇所を学生がクラス内で研究発表を行う形式で授業を行う。 学生の研究発表は、受講学生数にもよるが、学期内に1回~2回程度の予定である。詳細は第1回目の授業時に行う。本講義は対面形式にて行う。 次の目標に到達できるよう教育・指導を行う。 1. 就職後、人材開発専門スタッフとして成長するために必要な基礎・専門的能力を習得できるようになる 2. 企業等組織における人的資源戦略について、組織の要請・上司の指示・助言・指導等を理解し、人的資源戦略の立案や運用を行うための基礎的・専門的能力を習得できるようになる 3. ビジネス・パーソンのキャリア開発を理解し、専門的視点から助言・指導するために必要な基礎・専門的能力を習得できるように						
評価の方法・基準	評価基準:クラス参加 20%、 評価は【S:90~100 A:80~8		7		を合格と	ける	
	No 教科書	1	著者	ISBN		出版社	出版年
テキスト	1						
スト	2						
	3						
参考文献等	テキストは『人的資源管理の力』 (白木三秀編著、文眞堂、2019 年、2,700 円 + 税)の改訂版(2024 年 3 月出版予定)を使用する。 第 1 回の授業時にテキストの指示を行う。						
と授業の関連性実務経験の概要	国際公務員としての実務経験に基づき、特に新興国に重点を置き海外勤務の有用性を戦略的人的資源管理の側面から講義を行う。						

					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前·事後学習
	人的資源戦略研究 とはなにか	本科目のねらい、授業の進め方、本科目と 経営科目との関係、人的資源戦略の検討	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 人的資源管理、マネジメント、戦略的人的資源管理
1		視点・領域・研究方法等を中心に説明し、 質疑・意見交換を行う。授業の効果的進め 方についての意見交換も行う。	事後学習	2	人的資源戦略管理のテーマで、最も興味を持てる分野を一 つ選択し、その理由をレポートにまとめ提出すること。
2	戦略と人的資源管理	経営戦略と人的資源戦略との関係、人的 資源戦略の役割、人的資源戦略の策定プロセスと策定分野について、課題等を踏ま えながら、学生と共に考察を行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 ポジショイング・ベースの競争戦略、リソース・ベース・ビュー の競争戦略、ベスト・プラクティスアプローチ、コンティンジェ ンシー・アプローチ、多角化戦略
			事後学習	2	自動車メーカーの SUZUKI は小型自動車事業を成功させ るためにどのような人材を募集したと思うか。自分の考えを 展開させながらレポートにまとめ提出すること。
	採用と導入訓練	募集・採用と教育訓練を中心に人的資源 戦略との関係、人的資源戦略の役割、人	事前学習	2	OJT, Off-JT のメリット・ディメリットを調べること。授業時に確認を行う。
3		的資源戦略の策定プロセスと策定分野に ついて、課題等を踏まえながら、考察し、 学生と討議を行う。	事後学習	2	「日本型採用方式」と「海外の採用方式」のメリットとディメリットを整理し、レポートとして提出すること。
4	業績管理とコンピテン シー	募集・採用と教育訓練を中心に人的資源 戦略との関係、人的資源戦略の役割、人 的資源戦略の策定プロセスと策定分野に ついて、課題等を踏まえながら、考察す	事前学習	2	次の戦略の違いを説明できるようにしておくこと。授業時に 確認を行う。 会社戦略(corporate strategy), 事業戦略(business strategy), 機能別戦略(functional strategy)
		る。学生と討議を行う。	事後学習	2	職能資格制度、コンピテンシー・マネジメントについて概説 し、レポートとして提出すること。
	評価と動機付け	従業員の評価と動機づけのメカニズムを中 心に人的資源戦略との関係、人的資源戦	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 評価基準、目標管理、多面的評価
5		略の役割、人的資源戦略の策定プロセス と策定分野について、課題等を踏まえなが ら考察する。事例を学生と討議する。	事後学習	2	マズローの欲求5段階説、ハーツバーグの欲求2要因説を実際の事例を使いながら説明し、レポートとして提出すること。
	報酬管理	欧州を中心に世界各国で普及している職 務ベース賃金制度と職務遂行能力や属人	事前学習	2	次の用語の意味を調べること。授業時に確認を行う。 職務ベース賃金制度、日本型賃金制度
6		的要素の人をベースとする日本型賃金制 度の比較を行い、両制度のメリット・ディメリ ットの検討を行う。	事後学習	2	マーケットペイの具体例(例:マーサー、日本総報酬サーベイ 2020年、https:www.mercer.co.jp/) を調べ、レポートとして提出すること。
7	リーダーシップ	リーダーシップ研究における特性研究、行 動研究、状況適応理論への発展過程を紹	事前学習	2	行動理論の中の、ミシガン大学研究、オハイオ州立大学研究を調べること。 授業時に確認を行う。
·		介し、リーダーに求められる要件について 討議を行う。	事後学習	2	リーダーに求められる要件を考えレポートとして提出すること。
	キャリア形成	キャリアとは広義では人間の生涯を通した さまざまな経験の連鎖を示し、狭義では仕 事の経験によって形成される経歴や仕事	事前学習	2	スーパーのライフ・ステージ論の各段階について調べること。授業時に確認を行う。 成長段階、探索段階、確立段階、維持段階、下向段階
8		生活パターン・意味づけを意味する。授業 では広義のキャリア形成について講義を 行う。学生と討議を行う。	事後学習	2	スーパーの分類に従えば、受講学生は人生の探索段階にいる。希望で構わないので、将来どのように確立段階、維持 段階、下向段階を過ごしたいか、自身のキャリア計画を作成 し、レポートとして提出すること。
9	グローバル人材開発	経済・人材のグローバル化が進む中、なぜ 自律型のキャリア計画が必要であるかにつ	事前学習	2	パールムッターの多国籍企業発展論(本国志向型、現地志 向型、世界志向型)を調べること。授業時に確認を行う。
9		いて事例を交えながら説明を行う。学生と 討議を行う。	事後学習	2	日本企業におけるグローバル人材育成に向けての課題に ついてレポートとして提出すること。
10	ダイバシティとインクル ージョン	女性と外国人労働者を労働力として活用することは人口減少を続ける日本経済にと	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 M 字型曲線、ポジティブアクション
10		り重要な施策である。授業ではダイバーシ テイ・マネジメントの現況を日本と海外の事 例から検討を行う。	事後学習	2	日本の生産人口の減少、対応策についてダイバーシティ・マネジメントとインクルージョンの面からレポートを作成し提出すること。
11	ワーク・ライフ・バランス	日本でのワーク・ライフ・バランスの現況を コロナ禍の前と後でどのように変化してい	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 女性のWLB,男性のWLB
11		るか、データを使いながら講義を行う。その 後、学生と討議を行う。	事後学習	2	高齢化社会への対応策として、女性活用、高齢者活用、外 国人活用について調べ、レポートとして提出すること。
12	人事部の機能と役割	日本企業における人事部の役割と機能に ついて講義を行う。特に留学生向けに、海 外の企業の人事部と日本企業の人事部の	事前学習	2	何故、日本の大企業は欧米企業に比べ人事部が大きな影響力を持っているかについて調べること。授業時に確認を 行う。
12		役割の違いについて言及する。	事後学習	2	日本企業で人事担当者になる場合と欧米企業で人事担当 者になる場合の職務経験の違いについてレポートにまとめ 提出すること。
13	労使関係と人的資源 管理	集団的労使関係と個別的労使関係の現状 と課題について講義を行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 集団的労使関係、個別的労使関係、労資と労使の違い
10	. 노 /	A和户空间中车 (2714-747-747-747-747-747-747-747-747-747-	事後学習	2	日本の労働組合直面している課題をレポートにまとめ提出すること。
14	セイフティネットと 人的資源管理	予期せぬ出来事に対応するセーフティネットの役割と機能について講義を行う。学 生との討議も行う。	事前学習	2	次の用語の定義を調べること。授業時に確認を行う。 社会保障制度、健康保険、年金保険、介護保険、労災保険、 アジア諸国での社会保障制度について調べレポートにまと
	学生の研究発表	人的資源戦略に関するテーマで学生が研	事後学習	2	め提出すること。
15	,工·/-例 几元权	欠的負債を取得に関するプレストを提出	事前学習事後学習	10	研究発表の準備、レポートの執筆 他の受講学生の研究発表に基づき学生は振り返りを行う。
		ッ 'a/o	テ 文 子 日		に、Amr 1 エッッフuル外に出って丁王はMV及7で刊力。

								東洋学	常園大学	
区分	Z	基幹研究	究科 目	科目名	財務	会計研究	担当者	富田 洋	介	
	開	講期	間	秋学	 :期	選択・必修の別	選択			
	配	当 年	次	1年		単 位 数	2 単位	Ĺ		
	授	業形	態	講義	科目	ナンバリング	8ACC	C-202		
	実	务経験の 律	育無		経験該当科目					
ディフ	ディプロマポリシー(DP)における教育目標 現代的な経営課題についての深い知識の修得									
カリキ	キュラム	・ポリシー(CP)上の位置へ	がけ	CP-2 細分化された	た職能分野に関する専門	月的知言	能を習得する。		
講義の目的・内容) 初学者にも理解しやすく解説するつもりである。 本年度の本講義は対面にて行われる。 履修上の注意									
到達目標	2)財 3)企	1)企業の財務諸表について学生自身の考えによって評価できること。 2)財務会計の基本的な考え方とプロセスを習得すること。 3)企業財務について資本コストと企業価値の両面の関連性を理解すること。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。								
評価の方法・基準	履修者人数や講義形態によって変更する可能性があるが、変更がある場合には講義内にて必ず連絡する。									
	No		教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年	
テキスト	1	財務会計	・入門(第 16 🖺	反)	桜井久勝、須田一章	字 978-4641222144		有斐閣アルマ	2023	
スト	2									
	3									
参考文献等	テキストを使用して講義を進めるので、必ず購入し、準備してほしい。 参考図書については、講義中に適宜指示する。									
と授業の関連性実務経験の概要	マクロ	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。								

		₩ . ##	事前学習	吐用	事前•事後学習
	主題	概要	事後学習	時間	
1	イントロダクション・ 導入授業	講義の進め方と財務会計 の概略について解説す る。	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので 目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	会計の種類と役割	財務会計の役割について 解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
נ			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	財務会計のシステム と基本原則	複式簿記の構造や資産評価の原則を学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
J	6 Mr 7H I 2 Mrs 6	A Nils and this X x x x 1st 1s A	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	企業の設立と資金 調達	企業形態としての株式会 社を中心に学習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	11 -) 11 - 27 - 21	Walkersmen of the street	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
5	仕入と生産活動	営業循環や人件費について解説する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	F = 万系	± [), [2) = [[], [], [], [], [], [], [],	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
6	販売活動	売上げに関する計測と財 務諸表の関連性を解説す	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	-511/共+11.次 1. 7T /元 8日	る。 減価償却、研究開発、無	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
7	設備投資と研究開 発	「「「「「「「」」」が、「「」」が、「「」」が、「「」。 形固定資産について議論 される。	事前学習	2	毎回分の内容について、必りプキストを熟試しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	資金管理と運用	資金運用(短期)(長期)に	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
	貝亚日在C座川	ついて解説する。金融に おける短期とは1年以内	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
8		の取引を指し、長期とは1 年を超える取引のことを指 す。	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
9	国際活動	輸出入や為替について学 習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
Ü			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
10	税金と利益処分	企業財務と税の関係につ いて議論される。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	HIZESE A SILVIV		事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
11	財務諸表の作成と 公開	ディスクロージャーについ て議論される。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	企業集団の財務報	古外中や地主の毛亜州に	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
12	企業集団の財務報 告	連結財務諸表の重要性に ついて解説する。	事前学習	2	「今回分の内谷についく、必すデキストを熟証しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	財務諸表による経	財務分析指標について考	事後学習	2	講義内での相定説明などを自分自身で登埋し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
13	営分析	察する。	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	金融機関と一般事	金融機関と一般事業会社	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
14	業会社	の相違について確認し議論する。	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	財務会計と事例	テキストの事例に基づいて	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
15		考え方を整理する。	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
			事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

タ ディブ	基幹研究科目 科目名 期 講 期 間 秋空 秋空 配 当 年 次 1年 技 業 形態 実務経験の有無 プロマポリシー(DP)における教育目標	単 芝期 芝 芝科目	会計研究 選択・必修の別単位数 サンバリング についての深い知識の	選択 2 単位 8ACC-203	藤野	雅史
カリキ講義の目的・内容	キュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ		た職能分野に関する専F	月的知識を習得	<u></u> 事する。	
到達目標	Т	G-Navi より確認	ふ のこと			
評価の方法・基準						
テャ	No 教科書名 1	著者	ISBN	Ė	出版社	出版年
テキスト	2 3					
参考文献等		1	1	1		
と授業の関連性実務経験の概要						

主題 概要						水 /十1四八1
The state of th		主題	概要		時間	事前・事後学習
2 事的学習 3 事的学習 事的学習 事後学習 10 事的学習 11 事的学習 12 事的学習 13 事的学習 14 事的学習 15 事的学習						
3 事後学習 事前学習 事前学習 事後学習 事務学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事務学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後	1			事後学習		
事後学習	9			事前学習		
Ban	2			事後学習		
4 事(安智 事) 5 事前学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後	3			事前学習		
\$\begin{align*} \begin{align*} \b	3			事後学習		
事後学習 事的学習 事後学習 事的学習 事後学習 事的学習 事的学習 事後学習 事的学習 事後学習 10 事前学習 事後学習 11 12 事前学習 13 14 事前学習 事前学習 事務学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	4			事前学習		
事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学	4			事後学習		
5 事後学習 9 事前学習 10 事的学習 11 事的学習 12 事的学習 13 事的学習 14 事的学習 15 事的学習 事的学習 事後学習 事務学習 事務学習	_					
6 事前学習 7 事前学習 8 事前学習 9 事前学習 10 事前学習 事後学習 事後学習 11 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習	5					
7 事後学習 8 事前学習 9 事前学習 10 事前学習 11 事前学習 12 事前学習 13 事後学習 14 事前学習 15 事前学習	_					
事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事的学習 事後学習 事的学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事務学習 事務学習 事務学習 事務学習 事前学習	6			事後学習		
事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 10 事前学習 事後学習 12 事前学習 事務學習 事務學習 事前学習 事務學習 事務學習 事務學習 事前学習 事前学習 事前学習	7					
事後学習 事前学習 事後学習 10 事前学習 事前学習 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 事前学習 事前学習	1			事後学習		
事後字習 事前学習	8					
事後学習 事前学習	0			事後学習		
事後字習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	0			事前学習		
10 事後学習 11 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習	Ð					
11 事前学習 12 事前学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習 15 事前学習	10					
11 事後学習 事前学習 事後学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習	10					
事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	1.1			事前学習		
12 事後学習 13 事前学習 14 事前学習 15 事前学習 15 事前学習	11			事後学習		
事後字首 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習	10			事前学習		
事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事前学習 事前学習	12			事後学習		
事後字首 事前学習 事後学習 事前学習	1.0			事前学習		
14 事後学習 事前学習	13					
事後字習 事前学習	1.4			事前学習		
	14			事後学習		
事後学習	1.5			事前学習		
	15			事後学習		

									東	洋学園大学	
区分	基	\$幹 研9	党科 目	科目名	ファイナンス戦略研究			担当者	富田	洋介	
	開	講期	間	春学	· 期	選択・必	必修の別	選択			
	配	当 年	次	1年		単(立 数	2 単位	Ĺ		
	授業形態 講義科目 ナンバリング 8CMM-202										
	実務経験の有無実務経験該当科目										
ディフ	プロマポリシー(DP)における教育目標 現代的な経営課題についての深い知識の修得										
カリキ			CP)上の位置へ		CP-2 細分化され7						
講義の目的・内容	トメンもしく	本講義では企業における資金調達や付随する投資戦略について研究する。特にコーポレート・ファイナンス、つまり、企業側と、インベストメントファイナンスの側面、つまり、投資家の側面の両面から議論を重ねていく。本講義では企業にとって機動的な財務戦略とは何か。もしくは投資家が考えるべき投資戦略はどのようなものか。という内容について検討される。 講義の進め方としてはテキストの輪読形式にて行う。したがって、事前の予習は不可欠となる。									
到達目標	②専 ③企	①企業の資金調達、投資理論などは学生さん自身で適切な説明ができるようになること。 ②専門的な視点から金融経済ニュースを読み解き、アカデミックな切り口から自分なりの意見を持つこと。 ③企業財務にかかわる簡単な数理計算ができるようになること。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。									
評価の方法・基準	レポ 履値 (2)評 総合	を者人数や 価の基準 計評価は 10	講義形態によ	って変更 点で表し	試験またはレポート(50% する可能性があるが、変 、以下の基準で成績と C:60~69 D:60 未満】	ご更がある場合		て必ず連	絡する。		
	No		教科書名	1	著	者	ISBN		出版社	出版年	
テキスト	1	コーポレー	ートファイナンス	戦略と	実践 田中 慎一,	保田 隆明	978-4478105	5412	ダイヤモンド社	2019	
ス ト	2										
	3										
参考文献等		教科書を使用し講義を進めるので、必ず教科書は購入すること。 参考図書については講義中に適宜指示する。									
と授業の関連性実務経験の概要	口調了	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。									

	主題	概要	事前学習	時間	事前•事後学習
	· —	講義の進め方とテキストの	事後学習	H-(1 H)	
1	イントロダクションと ファイナンスの概略 について	講義の進め方とアキストのストーリーを概観する	事前学習	2	テキストを中心に講義を進めていくので必ずテキストの購入 をすること。 また、テキストの流れを把握するために、「ざっと」で良いので 目次などの全体像に目を通すこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
2	リスクとリターン	リスクとリターンの概念を適 切に理解する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
3	ハードルレートとは	投資家が求める収益率に ついて解説される	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
	机发电光系测点子	4月/数 157 そそ 2017ラー・フェノ	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
4	投資収益の測定方 法	投資収益を測定するいく つかの方法を紹介する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	資本構成	資本コストについて議論す	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に仮立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
5	貝平傳成	夏本コスト(ごう)(、C議論 9 る	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	資本構成の応用	資本コストに関する理論的	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
6	東个旧/X*//////II	なモデルを解説する	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	資本構成の変化と	資本構成の変化について	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
7	枠組み	議論する	事前学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	配当政策について	配当の効果について議論	事後学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
8		する	事前学習 事後学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	配当政策の分析	配当の変化が企業価値に	事位于日	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
9		どのような影響を与えるの かについて議論される。	事份学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	企業価値について	企業価値の算定方法につ	事前学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
10		いて触れる	事後学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立
	デリバティブについ	 先物・オプションなどの簡 単なデリバティブについて	事前学習	2	てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。 今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。
11	7	単なアリハノイノについて 学ぶ 	事後学習	2	重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。 講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
	統計処理の基礎	ファイナンスに必ず必要な 統計処理の基礎を学ぶ	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
12		The state of the s	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
1.0	資金調達市場の国 際比較	資金調達市場は国によっ て異なっているのかどうか	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
13		を概観する	事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
14	最近のトピック I	最近の論文について議論 する	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと 。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
14			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。
15	まとめと総復習	これまでの重要点を総復 習する。	事前学習	2	今回分の内容について、必ずテキストを熟読しておくこと。 重要事項は理解し、暗記したうえで講義に臨むこと。
10			事後学習	2	講義内での補足説明などを自分自身で整理し、研究に役立 てられるようにすること。また、テキストの復習は重要である。

							東海	羊学園大学				
区分	1	基幹研究科目	科目名	相続•事	業継承設計	担当者	富田	洋介				
	開	講期間	春学	u 期	選択・必修の別	選択						
	配	当 年 次	1年		単 位 数	2 単位	Ĺ					
	授	業 形態	講義	科目	ナンバリング	8CMN	M-206					
		 終経験の有無			North L and Id.							
		『リシー(DP)における教育 ・ポリシー(CP)上の位置へ			についての深い知識の(た職能分野に関する専門		かよ羽俎トフ					
講義の目的・内容	相続・事業承継設計では相続のプロセスと事業承継に関するプロセスを学習する。学生諸兄の年齢から鑑みれば、相続・事業承継設計は縁遠い話かと思われがちであるが、人間が生き物である限り必ず訪れる老いに備えることは人生において必須条件となる。税金(相続税法)の知識と法律の知識についての習得が主な内容になる。中小企業の事業継承についても学習の重要なポイントとなる。本講義で相続・事業承継設計に関わる基礎知識を習得し将来の人生設計に役立ててもらいたい。											
到達目標	は重 ①相 ②事 ③ラ	本講義を通じて相続・事業承継に関する基礎的な用語・知識を身に着けることが目標となる。中小企業などでは、相続・事業承継の問題は重要である。したがって、本講義を通じてより実践的な知識を身につけることを期待する。 ①相続税の基本や用語を理解する。 ②事業承継に関する用語や制度について理解する。 ③ライフプランにおける贈与や相続の位置づけを理解する。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。										
評価の方法・基準	授 原原 評价 公評	価の方法	平価する こは、必 [*] 点で表し	が、履修人数等に応じて ず授業において学生さん 、以下の基準で成績と	いに通達する。							
	No	教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年				
テ	1	CFP®資格標準テキスト		日本 FP 協会	978-4-909303-99-8		日本 FP 協会	2023				
テキスト		相続•事業承継設計										
٢	2											
	3											
参考文献等		書の使用して講義を進め 図書については講義週に			Lv.							
と授業の関連性実務経験の概要	マクロ		軍用モデ	がル作成業務、統計処理	设信組成業務の管理、資産運、 業務、市場制度調査業務、金 快させる。							

			事前学習		
	主題	概要	事後学習	時間	事前•事後学習
1	相続・事業承継の概要と 学習の方法について	相続・事業継承の制度的概要に ついて解説する。また、本講義を 受講するにあたって必要な予習 復習および自己学習の方法につ	事前学習	2	日本 FP 協会のホームページなどを参考にライフプランにおける相続の位置づけについて考察してみると講義の理解がスムーズになるであろう。
		いて説明する。	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
2	相続の基礎	相続のプロセスや相続人、相続 財産などについて学習する。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
3	遺言について	遺言の効用とその生かし方を学 習する。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
	+U/# 12 0 / L VII 7	HU(독(大) > BB. 구스플 (자 / Tr 40 cb. rb	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
4	相続税の仕組み	相続税に関する課税価格や申 告・納付について学習する。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
	 	B F P の コ 体 十 沖 よ 1 シャ 平 70 上	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
5	贈与税の仕組み	贈与税の計算方法などを学習す る。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。 テキストおよび講義内にて解説した簡所などを
	相続・贈与財産の評価に	相続・贈与時に必要となる、十	事後学習	2	アキストおよい講義的にて解説した固所などを 丁寧に復習すること。 テキストを熟読し、報告担当者は指定された範
6	相続・贈与財産の評価に ついて	相続・贈与時に必要となる、王 地・有価証券などの評価方法に ついて学習する。	事前学習	2	サイトを熟読し、報音担当有は信止された 囲について報告資料を作成し準備すること。 テキストおよび講義内にて解説した箇所などを
		17 17 30	事後学習	2	丁寧に復習すること。 テキストを熟読し、報告担当者は指定された範
7	贈与を利用した相続設計 について	相続設計として贈与の仕組みを 活用する方法を学習する。	事前学習	2	囲について報告資料を作成し準備すること。
	- 毎年日もてぼるば 田油 19	 	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
8	評価引き下げの活用法に ついて	主に不動産の例を用いた活用方 法を学習する。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
		+ W. 7 Abb 2 2 2 2 2 2 2	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
9	事業承継の考え方につい て	事業承継のプロセスについて考 察する。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
	- NIC 7 cale a prop a state letter.	+ W. 7 (Ab.)) 10-11-11-1	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
10	事業承継の際の自社株式 の評価について	事業承継としての自社株設計を 考察する。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
11	株式公開·事業売却	自社の株式を公開するパターン と事業を売却するパターンの両	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
		面から考察する。	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
12	モデル研究① (相続・贈与)	ファイナンシャル・プランナー試験における実技試験などを例	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
	TIMO	に、これまで学んだ知識を活用する。	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
13	モデル研究② (事業承継)	ファイナンシャル・プランナー試験における実技試験などを例	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
	+n/± 0M +) = 88 1 = 40 14	に、これまで学んだ知識を活用する。	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
14	相続・贈与に関する総括	相続・贈与における重要事項の 総復習を行う。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
	ᆂᄴᅺᄴᆝᇃᄜᆚᅺᄭᅜ	主要 7.60 0 = 15.1 1 マでマナマ・ハ	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。
15	事業承継に関する総括	事業承継における重要事項の総 復習を行う。	事前学習	2	テキストを熟読し、報告担当者は指定された範囲について報告資料を作成し準備すること。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 丁寧に復習すること。

								東洋学園大!			
区分	基幹研究科目 目 名 名 日 名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日				タックス	プランニング	担当者	富田 洋介			
	開	講期	間	秋学	 期	選択・必修の別	<u> </u>				
	配	当 年	次	1年		単 位 数	2 単位				
	授業形態 講義科目 ナンバリング 8CMM-207										
		 終経験の有		- I=	다리 / 나스스 사고 사스를 때 되고	とのスクがい知識の	か 石				
			における教育[CP)上の位置つ			についての深い知識の(た職能分野に関する専門		集た羽但士 ス			
講義の目的・内容	タックスプランニングでは所得税、法人税を中心に学ぶ。したがって、本講義では、年金、金融資産運用、生命保険、不動産、贈与・相続など幅広い知識が必要となる。タックスプランニングはただ単に節税の知識と思われがちであるが、キャリアアップを目指す実務家や就職活動をひかえた学生、家計の見直しのためには必要な知識となる。したがって、本講義でタックスプランニングに関わる基礎知識を習得し将来の人生設計に役立ててもらいたい。										
到達目標	より- ①所 ②税 ③そ	本講義を通じてタックスプランニングに関する基礎的な用語・知識を身に着けることが目標となる。タックスプランニングを学習することで、より一層実践的な知識が身につくことを期待している。 ①所得税の基礎について理解する。 ②税控除、損益通算、繰越控除などの仕組みを理解する。 ③その他の税制についての概要を理解する。 上記目標はディプロマおよびカリキュラム両ポリシーの達成につながる。									
評価の方法・基準	レオ ○評 総7	価の基準 合評価は 10	00 点満点の素	点で表	試験またはレポート(50% し、以下の基準で成績と C:60~69 D:60 未満】)を合わせて総合評価する。 する。					
	No		教科書名		著者	ISBN		出版社 出版:			
テキスト	1	CFP®資格	各標準テキスト		日本 FP 協会	978-4-909303-98-1		日本 FP 協会 2023			
スト	2										
	3										
参考文献等	本講義は教科書を使用するので、必ず購入してほしい。参考図書は講義中に適宜指示する。										
と授業の関連性実務経験の概要	証券会社、投資顧問会社、投信委託会社を通じた金融実務(投信組成業務の管理、資産運用業務、日本経済・欧州経済におけるマクロ調査業務、ファンド投資運用モデル作成業務、統計処理業務、市場制度調査業務、金融商品販売営業、マニュアル作成業務など)を投資運用の視点から当該科目に実務的な視点から反映させる。										

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前·事後学習
1	所得税の概要と学習 の方法について	所得税の概要と基本的な事項につい て解説する。また、本講義を受講する にあたって必要な予習復習および自	事前学習	2	国税庁ホームページの「税の学習コーナー」を よく読んでおくと講義内容の理解がスムーズとな るであろう。
		己学習の方法について説明する。	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
2	税制の概要	税金の体系や種類、税の徴収に関 する基礎知識を学習する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
۷			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
3	所得税について(所得 税の種類について)	所得税の内訳についてその種類を学 習する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
3			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
4	所得税について(利子 所得・配当所得・事業	利子所得、配当所得、事業所得の詳細について取り扱う。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
1	所得)		事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
5	所得税について(給与 所得・一時所得)	給与所得、一時所得の詳細について 取り扱う。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
6	所得税について(不動 産所得・譲渡所得)	不動産所得、譲渡所得の詳細について取り扱う。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
0			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
7	所得税について(退職 所得・山林所得・雑所	退職所得、山林所得、雑所得の詳細 について取り扱う。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
	得)		事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
8	損益通算と繰越控除 について	損益通算の仕組みと繰越控除につ いて詳細に学習する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
9	確定申告と所得控除 について	確定申告書類の書き方や納付について学習する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
10	個人住民税および法 人税について	住民税の仕組みと法人税の仕組み、 そしてその概念について取り扱う。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
10			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
11	法人税の損金・益金 について	法人税における損金と益金の概要に ついて学習する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
12	法人の決算書の見方 と分析	企業の財務諸表に関連する税制に ついて整理する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
	No.		事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
13	消費税について	消費税の仕組みと財政学的な視点 から消費税を概観する。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
14	タックスプランニングと ライフプランについて	タックスプランニングをライフステージおよびイベントに適応させるために必	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
	h.) 0	要な概念を概観する。	事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。
15	タックスプランニングに 関する総括	タックスプランニングにおける重要事 項の総復習を行う。	事前学習	2	指定された教科書の範囲について熟読し、報告 担当者はレジュメを作成する。
23			事後学習	2	テキストおよび講義内にて解説した箇所などを 復習すること。

							東洋	学園大学			
区分	基	基幹研究科目	科目名	特別講義	I	担当者	清水 自	再美			
	開	講期間	春学期	選択	・必修の別	選択					
		当 年 次	1年	単	位数	1 単位					
	授業形態 講義科目 ナンバリング 8JLE-101										
デカ		系経験の有無 リシー(DP)における教育	╛毎────────────────────────────────────		の深い知識の						
		・ポリシー(CP)上の位置へ		□ 細分化された職能分			************************************				
講義の目的・内容 到達目標	【内容 ②講 ③クラ ※ 最 ① 書 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	ド=授業の流れ】 回のテーマに従って、短い 師からのフィードバックを うスで発表をし/クラスメー 則として、1つのテーマに 終発表のテーマは、秋学 きことばと話しことばの違い き手の興味を引きつけ、6 やすくわかりやすい視覚資	い発表のため 参考に、スライートの発表を被 ついて2週かり期の特別講家 いが大きい日本 云えたい内容を 資料(おもにス のある問題につい 、質問や意見	けて準備と練習をし、3週めに をII (レポート)の最終レポート 本語の特性を理解し、両者を をわかりやすく効果的に伝える ライド)を作成するための日本 ひいて、視覚資料を用いて口頭	のためのノート(= 3 項発表の練習をする 発表する。 のテーマと共通で、 適切に使いこなせる ための話し方を身い 語表現を身につけ	。 「日本の(ようになる こつける。 る。	○○に対する違和感」 る。				
評価の方法・基準	各回 最終 (2)評	平価方法 の練習課題(スライドと発達 発表 40% 平価基準 1~100 A: 80~89 B:70~		、各回の口頭発表 20%、授業 D:60 未満】	多の参加貢献(ク	ラスメート	の発表に対するコメン	トなど)10%、			
	No	教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年			
テキスト	1	大学·大学院 留学生 論文作成編	の日本語4			1	アルク				
	2							+			
参考文献等	・必要・テキ	3 ・必要に応じて、説明の動画や参考資料を配信する。 ・テキストは秋学期「特別講義Ⅱ」で本格的に使用するものだが、「特別講義Ⅰ」の学習の際も参照するので、春学期のうちに購入しておくことが望ましい。									
と授業の関連性実務経験の概要											

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前・事後学習
1	オリエンテーション、口頭 発表に関する理解の共有	・シラバス確認 ・自己紹介(2種類の自己紹介) ・口頭発表の経験と日本語力確認	事前学習	0.5	シラバスを読み、自己紹介で話すことを考え ておく MicrosoftTeams への登録
1		のためのアンケート ・メモと発表原稿の違いを確認する ・最終発表のテーマを考える	事後学習	1.5	・2種類の自己紹介(メモと発表ノート)作成 ・最終発表のテーマを考える
2	・見やすいスライドを作る・メモ/スライドを見ながら	・メモの作り方(=箇条書きのしかた)	事前学習	0.5	講師からのフィードバックを参考に、自己紹介 のスライドを作成する
	話す	・メモを見ながら話す練習	事後学習	1	発表の練習
3	発表「理想の自己紹介!」	スライドを使って自己紹介をし、質 疑応答をする	事前学習	1	講師からのフィードバックを参考に、スライドを 完成し、発表の練習をする
			事後学習	0.5	クラスメートによる自己紹介に対して、質問や コメントをする
4	写真や図の説明	写真などの画像を見せて、聞き手 の興味を引きつつ、わかりやすく解	事前学習	1	見ただけではわかりにくい画像を1枚選び、解 説のためのスライドと発表ノートを作成する
1		説する	事後学習	1	講師からのコメントを参考に、スライドとノートを 修正・完成する
	発表「何これ?」	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
5			事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントを する
	対比を明確にする	「コロナ禍で得たもの、失ったもの」について、スライドと発表ノートを作	事前学習	2	テーマについて、箇条書きで見やすいスライ ドを作成し、ノートを準備する
6		成する	事後学習	1	講師からのコメントを参考に、スライドとノートを 修正・完成する
	発表「コロナ禍で得たも	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
7	の、失ったもの」		事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントを する
0	事実・伝聞(引用)・自分の 意見をきちんと分ける	「今気になっているニュース」を1つ とりあげ、概要をわかりやすくまとめ	事前学習	1	「今気になっているニュース」を1つ選び、紹介 のためのスライドとノートを作成する
8		て紹介する	事後学習	1	講師の意見を参考に、スライドとノートを修正・ 完成する
	発表「今気になっている	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
9	ニュース」		事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントを する
10	数値の意味を伝える	気になるデータ(グラフや表)を1つ 選び、「数値の意味」をわかりやす く紹介する ※特別講義Ⅱの教科書、第6~8	事前学習	2	気になるデータを含むグラフあるいは表を1つ 選び、出典を示したうえで、その内容をわかり やすく紹介するためのスライドと発表ノートを 作成する。
		課を参考にすること	事後学習	1	スライド・ノートの修正
	発表「気になるデータ」	発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
11			事後学習	0.5	クラスメートの発表について質問やコメントを する
12	「日本の○○に対する 違和感」①	最終発表のテーマを決め、アウトラ インを作成する	事前学習 事後学習	2	テーマを決め、アウトラインを作成する 講師の意見を参考に、アウトラインを修正する
1.0	「日本の○○に対する	アウトラインに沿ってスライドを作成	事前学習	2	スライドと発表ノートの作成
13	違和感」②	し、発表ノートを作成する	事後学習	2	スライドと発表ノートの修正
1.4	「日本の○○に対する	スライドとノートを修正し、話す練習	事前学習	0.5	発表の練習と、質問の準備
14	違和感」③	をする	事後学習	1	スライドの完成と発表の練習
15	最終発表「日本の○○	・発表し、質疑応答をする	事前学習	1	発表の練習
15	に対する違和感」	・授業評価	事後学習	0.5	授業評価

									果	「洋学園大学		
区分	基幹研究科目 目 特別講義 I					リ講義 Ⅱ		担当者	清水	由美		
	開	講期	間	秋学期			必修の別	選択				
	配	当 年		1年			位数	1 単位				
	授業形態 講義科目 ナンバリング 8JLE-102											
デバ	実務経験の有無 現代的な経営課題についての深い知識の修得 現代的な経営課題についての深い知識の修得											
	プロマホリシー(DP)におりる教育目標 現代的な経営保護についての保い、知識の形得 CP-2 細分化された職能分野に関する専門的知識を習得する。											
講義の目的・内容	【目的】 ①レポート作成に必要な日本語の語彙・表現形式、およびレポートの構成について学ぶ。 ②「日本の○○に対する違和感」というテーマのもとに関心のあるトピックを1つ選び、必要な情報・資料を集め、学期末に最終レポートを仕上げて提出する。 【内容】 ①一般的なレポートの構成に沿って、段階的に必要な知識を学び、練習をする。 ②必要に応じて、最終レポート執筆のための相談や意見交換の場を設ける。 ※最終レポートの大枠のテーマは、春学期の特別講義 I (口頭発表)の最終発表と共通で、「日本の○○に対する違和感」とする。 【基本的な学習の流れ】 ①テキストの内容をしっかり予習する。 ②予習内容の確認のためのクイズを受ける。 ③疑問があれば授業で質問する。 ④短い課題文を書いて提出する。 ⑤フィードバックを受けて、自分の書いた文章の問題点を意識する。											
到達目標	②関 ③自	心のあるテ 分やほかの	ーマについて、 の受講生が書い	, A4 版 3~5 たものにつ	現形式、およびレポ 5 ページ程度(資料に いて、意見交換がで 番の問題点に気づき、	は別)の、説得 きるようになる。	力のあるレポート	を仕上げ	げる。			
評価の方法・基準	予 ※- (2)言	予習確認ク 平価基準		と予習して理	0%、最終レポート: 4 2解する」のが目的で 9 D:60 未満】		oには、満点が取	れるまで	「何回受験してもよ	l'o		
	No		教科書名		著者		ISBN		出版社	出版年		
テキスト	2 3	大学·大 論文作成	:学院 留学生 対編	の日本語	4 アカデミック・ジ 研究会	ヤパニーズ	9784757426344	1	アルク			
参考文献等		3 ※デキストは、春学期の「特別講義 I 」で参考書として紹介したデキストと同じもの										
と授業の関連性実務経験の概要												

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前•事後学習
	オリエンテーション、 レポート作成に関する	・授業の概要説明 ・自己紹介	事前学習	0.5	最終レポートのテーマとして、関心のあることを クラスで話せるようにしておく
1	理解の共有	・書いてみたいテーマについて意見 交換	事後学習	1	自己紹介文(2040年の雑誌のインタビュー記事 における自身のプロフィールとして)
	話し言葉と書き言葉の	・テキスト 1、2 課「作文の基本」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
2	違いを意識し、レポー トの構成を知る	・アウトライン、情報・資料の集め方	事後学習	1	・予習確認クイズでミスがあれば、テキストで 再確認しておく・最終レポートのアウトラインを作成する
	引用のマナー、アウト	・テキスト 11 課「引用」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
3	ラインの検討	※引用のマナーは非常に重要なので、ほかの課に先立って 11 課を学習する。 ・アウトラインの検討	事後学習	1.5	・引用および参考文献リストを含む課題文の執 筆 ・前回提出したアウトラインへのフィードバックを 読み、必要な修正をする
	レポート序論#1	・テキスト3課「課題の提示」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
4		・前回課題(文献リストと引用)の読み合わせ	事後学習	1	・研究課題の提示文を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	レポート序論#2	・テキスト4課「目的の提示」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
5		・前回課題(「課題の提示」文)の読み合わせ	事後学習	1	研究目的の提示文を含む課題文の執筆前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
	レポート本論#1	・テキスト5課「定義と分類」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
6		・前回課題(「目的の提示」文)の読み合わせ	事後学習	1	・定義と分類を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	レポート本論#2	・テキスト6課「図表の提示」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
7		・前回課題(「定義と分類」)の読み合わせ	事後学習	1	・図表の提示文を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	レポート本論#3	・テキスト7課「変化の形容」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
8		・前回課題(「図表の提示」)の読み合わせ	事後学習	1	・変化の形容を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	レポート本論#4	・テキスト8課「対比と比較」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
9		・「変化の形容」の読み合わせ	事後学習	1	・対比と比較を含む課題文の執筆・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
	レポート本論#5	・テキスト9課「原因の考察」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
10		・前回課題(「対比と比較」)の読み合わせ	事後学習	1	・原因の考察を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	レポート本論#6	・テキスト 10 課「列挙」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
11		・前回課題(「原因の考察」)の読み合わせ	事後学習	1	・列挙を含む課題文の執筆・前回提出した課題へのフィードバックを読み、必要な修正をする
	レポート本論#7	・テキスト12 課「同意と反論」・	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
12		・前回課題(「列挙」)の読み合わせ	事後学習	1	・同意あるいは反論を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	レポート結論	・テキスト 13 課 「帰結」 14 課 「結論」	事前学習	1	テキストを読み、疑問があれば質問する
13		・前回課題(「同意と反論」)の読み合 わせ	事後学習	1	・帰結あるいは結論を含む課題文の執筆 ・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする
	最終レポートのテーマ と構成を確定し、執筆	レポート相談会(個別対応) 前回課題(「帰結/結論」)の読み合	事前学習	2	最終レポートのテーマを決め、アウトラインを完成する
14	にかかる	わせ	事後学習	3	・最終レポートの執筆・前回提出した課題へのフィードバックを読み、 必要な修正をする・前回までのすべての課題について、疑問があれば質問する
	最終レポートを仕上げ	レポートの仕上げと、学生による授業	事前学習	2	最終レポートの仕上げ
15	る	評価	事後学習	3	・最終レポートの完成、提出
			, , , ,		•授業評価

								果月	f学園大学			
区分		関連研	究科目	科目名	ビジネ	ス経済研究	担当者	田中	巌			
	開	講期	間	秋学	期	選択・必修の別	選択					
	配	当 年	次	1年		単 位 数	2 単位					
	授	業形		講義	科目	ナンバリング	8BIZ-	-201				
	実	8経験の	有無									
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標 自己の研究を発展させる知識の修得 (CD 2) 大西な際代人駅の専用的知識などは クロの研究部間に関すれた											
カリキ	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ CP-3 主要な職能分野の専門的知識を補完し、各自の研究課題に関連した 知識を習得する。											
講義の目的・内容	義の目 以下のテーマについて学習する。 (1)経営経済学の性格と範囲 (2)経済学における最適化問題											
到達目標	(2) fr (3) fr (4) fr (5) fr (6) fr	需要と供給 余剰分析を 完全競争で ま占産業(企業の投資	の理論、市場は を応用し政策評価 市場と独占市場	関係につ 西ができ のモデル 企業間 直につい	るようになる。 を習得し応用できるよう 竞争について理解し応用 いて理解する。	· · · ·						
評価の方法・基準	ウコ (2)	評価基準	受業参加(特にラ 		ション)を 60%、期末レボ 70~79 C:60~69 D:							
	No		教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年			
テャ	1											
テキスト	2											
	3											
参考文献等	福岡正夫、『ゼミナール経済学入門』第 4 版、日本経済新聞出版社、2008 年。 小田切宏之、『企業経済学』第 2 版、東洋経済新報社、2010 年。 Salvatore, Dominic, Managerial Economics in a Global Economy. Oxford University Press, 2007.											
と授業の関連性実務経験の概要												

					木 /十四八十
	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前·事後学習
1	イントロダクション、 Managerial Economics	授業の進め方についての説明、意思 決定と意思決定の5段階、企業の価	事前学習	2	経済学について、どのような学問であったか振り 返っておく
1	(経営経済学)とは、経 済学と経営学の接点	値について	事後学習	2	経済学と経営学の関連性について確認する
2	経営経済学の範囲と 性格	企業(生産者)の理論、会計利潤と経済利潤、機会費用、グローバル化と	事前学習	2	ミクロ経済学の復習、配布したケーススタディー を予習
		経営経済学 	事後学習	2	配布資料の復習と、それに関する追加文献を探し読んでみる
3	経営経済学の範囲と 性格(続き)、ケースス	グローバルなリーダーの資質に関す るケーススタディーを読み、ディスカッ	事前学習	2	ケーススタディーの理解と考察、クエスチョンシートへの取り組み
	タディーの理解とディ スカッション	ションを行う	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの 復習
4	経済学における最適 化問題	経済的な関係性とは、制約条件と は、経済学における最適化(最大化)	事前学習	2	ミクロ経済学の復習、配布したケーススタディー を予習
		問題について	事後学習	2	最適化問題とはどういうものか復習する
	需要の理論(1)	需要の概念の復習、個々人の需要と	事前学習	2	需要に関して復習しておく
5		市場における需要、限界効用と需要 曲線、需要の価格弾力性と所得弾力 性、需要の価格弾力性と経営におけ る意思決定	事後学習	2	需要の価格弾力性について、計算方法も含め て復習しておく
	需要の理論(2)	無差別曲線と予算制約線、効用最大	事前学習	2	需要に関して復習しておく
6		化、需要曲線の導出、所得効果と代 替効果	事後学習	2	最適化問題としての効用最大化について復習 する
7	需要の理論(3)、需要 に影響するものとは、	アメリカにおけるマクドナルドのハンバーガー需要の変遷に関するディス	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
·	ケーススタディーの理 解とディスカッション	カッションと考察	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの 復習
	生産の理論(1)	生産関数とは、投入と限界生産性、	事前学習	2	供給に関して復習しておく
8		最適な投入の組み合わせとは、等量 曲線と等費用線、限界生産力逓減の 法則、費用最小化	事後学習	2	等量曲線と等費用線について復習する
9	生産の理論(2)	自動車による移動時間コストとガソリ ン・コストに関するディスカッションと考	事前学習	2	配布資料(ケーススタディー)を読み、クエスチョンシートに取り組む
		察	事後学習	2	ディスカッションの振り返り、クエスチョンシートの 復習
	コスト(費用)の理論	固定費用と可変費用、短期・長期の	事前学習	2	費用に関して復習しておく
10	(1)	費用関数、平均費用と限界費用、市 場規模と企業数、規模の経済性と企 業の大きさ(最小効率規模)	事後学習	2	規模の経済性と企業の大きさ、企業数との関係 について復習する
	コスト(費用)の理論	完全競争市場における利潤最大化、	事前学習	2	完全競争市場について復習しておく
11	(2)	供給曲線の導出、完全競争市場の 特徴	事後学習	2	最適化問題としての利潤最大化について復習 する
	市場均衡とその特徴	需要曲線・供給曲線を用いた完全競	事前学習	2	市場均衡の図解を復習しておく
12	(1)	争市場における均衡の図解、均衡点 の特徴、不均衡な点の特徴、消費者 余剰・生産者余剰と社会的余剰、 様々な政策効果の影響分析	事後学習	2	余剰分析について復習する
	市場均衡とその特徴	市場構造と競争の程度、独占市場、	事前学習	2	市場構造の種類と特徴について復習しておく
13	(2)	寡占市場、独占的競争市場、独占市 場における均衡の図解	事後学習	2	余剰分析の視点から市場形態の特徴が説明で きることを復習する
14	企業の投資行動と資 金調達方法、企業価	投資決定の理論、利益処分と資金調 達、モジリアニ=ミラーの定理	事前学習	2	割引現在価値、企業価値の決まり方について復習しておく
17	値		事後学習	2	企業の資金調達方法として、内部留保を用いる 他、新株発行や増資があることを復習する
	寡占産業と企業間競	市場の集中度、寡占市場のモデル、	事前学習	2	企業の成長とは何かについて考えておく
15	争・企業形態、多角 化、多国籍化、期末レポート課題の配布と説 明	寡占企業の効率性と利益率、グローバルな寡占企業、海外直接投資(FDI)と多国籍企業	事後学習	2	期末レポート課題に取り組む

									東洋学園大学		
区分		関連	研究	它科目	科目名	ビジネ	ス法律研究	担当者	北島 純		
	開	講	期	間	春学	 期	選択・必修の別	選択			
	配	当	年	次	1年		単 位 数	2 単位	<u>.</u>		
	授	業	形		講義		ナンバリング	8BIZ-	-202		
			険の有			経験該当科目	() y / #\ ~ / / / /				
				における教育	-	自己の研究を発展		۱ جــا :	タムの無効無関はまます。		
カリコ	ドユフ ・	ム・ホリ	シー((CP)上の位置へ		CP-3 土安な職能知識を習得する。	分野の専門的知識を無	元し、	各自の研究課題に関連した		
講義の目的・内容	ビジネスに関わる法律には、民法・会社法から独占禁止法・不止競争防止法に全るまで、様々なものがあります。参加者各目の研究課題 に関連した「ビジネス法」の「知識」と「考え方」を習得しつつ、適宜「判例」を参照しながら、具体的なケーススタディを行います。 参加者には適宜報告を求め、ゼミ形式で議論を行う予定です。										
到達目標	(1)ビジネスに関連する主な法律の趣旨、要件、効果等の知識を身につける。 (2)ビジネスにおいて法律の解釈・適用が問題となった事例を挙げて説明できるようになる。 (3)各自の研究課題に関連する範囲で、ビジネス法に関する主たる判例を学び、法の解釈・適用における問題点について具体例を説明できるようになる。										
評価の方法・基準	各目(2)	評価基	当する 5 準			の質問や意見の表明など 0~79 C:60~69 D:60		が期末レス	ポート(40%)により評価します。		
	No			教科書名		著者	ISBN		出版社 出版年		
テキ	1										
テキスト	2										
	3										
参考文献等	1					韓から実務対応まで』、は に応じて参考文献を指示	比島純、ISBN:978-4-502-0458 します。	80-6、中	央経済社、2011 年		
と授業の関連性実務経験の概要								-	た経験及びデンマーク王国大使館 面も含めて具体的に解説する。		

			事前学習		
	主題	概要	事後学習	時間	事前·事後学習
	法律問題とは何か	ビジネス・経済活動における	事前学習	2	軽犯罪法を調べてくる。
1		法律問題、法の解釈	事後学習	2	軽犯罪法における「正当な理由」の実例を 一つ検討する。
	憲法	憲法と経済活動、ビジネスと	事前学習	2	憲法の全条文を読んでくる。
2		人権	事後学習	2	経済的自由に対する制約が正当化された 実例を一つ検討する。
3	契約法	ビジネスと契約、債務不履 行、損害賠償	事前学習	2	取引先に対する契約不履行で何が問題と なるかを考える。
			事後学習	2	取引先に対する契約不履行が問題になっ た事例を一つ調べる。
4	法の執行(民事訴 訟)	ビジネス法律問題における法 の執行(民事)	事前学習	2	企業に対する損害賠償請求はどのように 遂行されるか、考えてくる。
1			事後学習	2	企業不祥事の裁判事例(民事)を一つ検 討する。
5	刑事法	刑法と経済刑法	事前学習	2	企業(法人)の犯罪をどう処罰するか、考え てくる。
			事後学習	2	企業犯罪のケースを一つ検討する。
6	法の執行(刑事訴 訟)	ビジネス法律問題における法 の執行(刑事)	事前学習	2	企業不祥事や従業員の犯罪に対して刑事 法はどのように執行されるか、考えてくる。
Ü			事後学習	2	企業不祥事の裁判事例(刑事)を一つ検 討する。
7	会社法	株式会社の仕組み	事前学習	2	株式会社の行った違法行為の責任は誰が 負うか、考えてくる。
•			事後学習	2	株式会社の違法行為が問題となったケースを一つ検討する。
8	会社役員の権限と 責任	取締役の善管注意義務、コーポレートガバナンス	事前学習	2	取締役の経営責任にどのようなものがある かを考えてくる。
O			事後学習	2	取締役の責任が追求された事例を一つ検討する。
9	企業の社会的責任	CSR、SDGs、ESG 投資	事前学習	2	企業が CSR(社会的責任)と SDGs についてを調べてくる。
J			事後学習	2	企業による SDGs への取り組み事例を一 つ検討する。
10	労働法(労働者の 採用)	労働契約法、男女雇用機会 均等法、労働者派遣法	事前学習	2	雇用契約と契約自由の原則の関係を考え てくる。
10			事後学習	2	労働者の採用に関する紛争事例を一つ検 討する。
	労働法(労働者の	労働基準法、労働組合法	事前学習	2	労働条件に関する紛争を一つ調べてくる。
11	保護)		事後学習	2	解雇権の濫用が問題となった事例を一つ 検討する。
	公益通報者保護制	企業内の紛争解決、内部告	事前学習	2	内部告発に関する事例を一つ調べてくる。
12	度·個人情報保護 法	発、個人情報とプライバシー	事後学習	2	企業による個人情報漏洩の事例を一つ検 討する。
13	消費者に対する責 任	消費者契約法と製造物責任 法	事前学習	2	消費者向け取引が事業者間取引とどう違う か、調べてくる。
			事後学習	2	消費者問題のケースを一つ検討する。
14	市場における競争 の公正と政府の公	独占禁止法、贈収賄罪、不正競争防止法(外国公務員	事前学習	2	市場の公正または公務の公正を害することがなぜ問題なのか、調べてくる。
11	正	贈賄罪)	事後学習	2	独禁法違反または贈収賄罪が摘発された 事例を一つ検討する。
15	著作権法	著作権の侵害とその救済	事前学習	2	SNS における著作権侵害について、考えてくる。
10			事後学習	2	著作権侵害が紛争となった事例を一つ検討する。

										果决学园天学	
区分		関連	研究	27科目	科目名	欧米ビ	ジネス研究	担当者	セーラ	バーチュリ	
	開	講	期	間	春学	 期	選択・必修の別	選択			
	配	当	年	次	1年	***	単 位 数	2 単位	<u></u>		
	授	業	形	態	講義	科目	ナンバリング	8BIZ-	203		
	実	務経 り	険の有	無							
ディフ	。ロマバ	ポリシー	-(DP)	における教育	目標	自己の研究を発展					
カリキ	テュラム	ム・ポリ	シー((CP)上の位置へ	がけ	CP-3 主要な職能 知識を習得する。	分野の専門的知識を補	完し、名	各自の研究	果題に関連した	
講義の目的・内容 到達目標	The increasing globalization of the market place affects all who are involved with business or who must make business decisions. Even those who are not directly involved in international business are affected in their domestic operations by international events and by the business activities of foreign entities. Therefore, it is imperative to be knowledgeable about the international business systems in Europe and North America. This course will introduce the concepts of international business in relation to various companies based in Europe and North America. It is important to remember that Europe is composed of fifty plus countries and consequently the business culture, business ethics and general value of business, can vary considerably amongst them. In addition, with the current situation involving Brexit and the COVID crisis, business professionals cannot afford to ignore what is happening in Europe and the impact that has on the wider global economy. Through in-depth case study discussion, analysis, and problem solving tasks in class, we will explore the major features of these North American and European companies and their interactions with Asia. In this course you will understand the following aspects of global business development and strategy: Advertising strategies; Product differentiation; Strategic alliances; Innovation; UX Design and thinking; Cross-cultural business communication;										
評価の方法・基準	受講 Cas 詳糾	<header-cell> ま 書 の Anal は 、 を</header-cell>	人数·f ysis 40 JJ回授	能力、授業の説 0%, Presentatio 業で説明しま ⁻	生捗状況 on 20%, す。	i・研究・参加態度等)によ により、小テストを実施し In-class discussions 20% 0~79 C:60~69 D:60	、平常点に加えることもありま , Final Report 20%] 。			
	No			教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年	
テャ	1										
テキスト	2										
	3	1									
参考文献等	Teacher prepared case studies, class TEAM for additional multimedia materials.										
と授業の関連性実務経験の概要											

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前·事後学習
	Business in Europe and North America	Breaking the Ice - Introduction to business in Europe and North America. Geography and basic sociocultural and	事前学習	2	Read course syllabus and expectations
1		economic considerations in the region. What is strategy? Does it differ between regions? What is the influence of politics on global business in these regions?	事後学習	2	Read Unit 1
	1. Airbus vs. Boeing: A	Analyze the competition between European-based Airbus and American-based Boeing in the aviation industry.	事前学習	2	Read Unit 1 Task:
2	Transatlantic Rivalry	Explore factors such as government involvement, technological advancements, and market dynamics.	事後学習	2	Choose either Airbus or Boeing and explore one aspect of their business strategy in more detail.
	2. Tesla's Market	Explore Tesla's expansion into the European market,	事前学習	2	Read Unit 2
3	Entry into Europe	analyzing challenges related to regulatory compliance, consumer behaviors, and competition from traditional automotive companies.	事後学習	2	Task: Compare and contrast what you have studied about Tesla's entry to Europe with the company's entry to Asia.
	3. Booking.com (The	Tourism and Hospitality: UX Design, design thinking, and	事前学習	2	Read Unit 3
4	Netherlands)	the Netherlands as an innovation hub, innovations in the North American and European tourist industry as a result of COVID-19 and post pandemic.	事後学習	2	Task: Choose a service site similar to Booking.com and create a User Journey map and Empathy Map for the site. Prepare a short presentation of your findings. How could the company improve their site based on your findings?
	4. HSBC (UK)	Banking: Communicating across cultures; global banking, local approaches. Islamic Finance in European and	事前学習	2	Read Unit 4 Task:
5		American contexts.	事後学習	2	Look at the connection between religion and business. Find another example of a company or industry that is tightly connected to religion. What are the advantages of this? What are the disadvantages of this? This is a big difference between Asia and the West. How are companies and their business models. Products and services affected by or influenced by religion?
	5. The Brexit Impact on Businesses	Explore the implications of Brexit on businesses operating in both Europe and the United Kingdom. Consider how	事前学習	2	Read Unit 5
6	on businesses	companies have had to adapt their strategies, supply chains, and operations in response to the changing political and economic landscape.	事後学習	2	Task: Explore the impact of a major political event on a particular business or industry.
	6. AstraZeneca and	Investigate AstraZeneca's role in the global distribution of	事前学習	2	Read Unit 6
7	the Global Vaccine Distribution	COVID-19 vaccines, highlighting the complexities of international collaboration, supply chain management, and public relations during a global health crisis.	事後学習	2	Task: Choose another pharmaceutical company and explore their business strategies.
	7. Alibaba's Expansion into	Analyze Alibaba's attempts to expand its e-commerce presence in North America, exploring challenges related to	事前学習	2	Read Unit 7 Task:
8	North America	cultural differences, competition with local giants like Amazon, and regulatory environments.	事後学習	2	Explore the impact of culture on the international expansion of a company of your choice.
	8. Primark/Pennys	Fast Fashion: Sustainability, Corporate Social	事前学習	2	Read Unit 8
9	(Ireland)	Responsibility, and ethics post-Rana Plaza disaster.	事後学習	2	Task: Choose a recent business scandal. Analyse it from an ethics perspective: Why do you think it happened? Laziness, Greed, Confusion, Power, Complacency How was each level affected? (individual/moral character/relationships/the company?) What would you suggest for the future?
	9. Cirque du Soleil (Canada)	Blue Ocean Strategies: Creating uncontested market space, breaking the value/cost trade off. How Cirque has	事前学習	2	Read Unit 9 Task:
10	(Canada)	weathered the COVID crisis.	事後学習	2	Choose a company and explore it using the Blue Ocean Mindset. Write and explain an ERRC Grid for the Company Who are the Soon to Be, Refusing and Unexplored Customers?
	10. L'Oreal's	Examine L'Oreal's market strategies and brand	事前学習	2	Read Unit 10
11	Beauty Products Strategy in North America	management in the North American beauty industry, considering competition, consumer trends, and cultural influences.	事後学習	2	Task: Explore how an Asian cosmetics company has tackled the North American or European market.
	11. Intel's Strategies	Intel Corporation, a major player in the semiconductor	事前学習	2	Review of readings and PowerPoints
12	in North America and Europe	industry, has a strong presence in both North America and Europe. The case study explores Intel's strategies in these regions, considering technological advancements, competitive landscapes, and regulatory challenges.	事後学習	2	Task: Begin to collect resource materials to decide your final presentation theme.
10	Presentation	Prepare your research presentation through individual	事前学習	2	Prepare for presentations
13	Preparation	guidance with your teacher and classmates to develop your topic.	事後学習	2	Prepare your final presentation and report.
14	Presentation Session	Student research presentations in English or Japanese on a research topic selected and negotiated with course leader.	事前学習 事後学習	2 2	Prepare for presentations
	Evaluation, Review	Presentation evaluation, self and peer-review, reflection.	事前学習	2	Peer-self evaluation and reflection Review whole course
15	of the course and Feedback		事後学習	2	Self-reflection Task

							*	[] [] [] [] [] [] []			
区分	関連研究	科目	科目名	中国ビ	ジネス研究	担当者	李	新建			
	開講期	間	秋学:	期	選択・必修の別	選択					
	配 当 年	次	1年		単 位 数	2 単位	Ĺ				
	授 業 形	態	講義	科目	ナンバリング	8BIZ-	-204				
	実務経験の有無										
	゚ロマポリシー(DP)に			自己の研究を発展さ			6 4 - 27 4 20	H			
カリキ	テュラム・ポリシー(CF			知識を習得する。	分野の専門的知識を補 開放路線に転換して以来,世						
講義の目的・内容 到達目標	し、名目 GDP では 2010 年に日本を抜いて世界第 2 位の経済大国になり、購買力平価 GDP では 2014 年に米国を抜いて世界第 1 位に躍進した。近年中国経済は安定成長期に入り、経済大国から経済強国への構造転換に取り組んでいる。このような背景のもとに、中国ビジネスや中国企業の成長は世界から注目を浴びている。 1980 年代ごろ日本企業の研究に基づいて新しい企業経営のコンセプトや理論体系が生み出されたと同様、中国ビジネスや中国企業の研究によりいわゆる"C理論"という新たな経営の理論体系の創出が期待されている。中国企業の実践(Chinese firm's practice)に基づいて、変革(change)、補完性(complementary)、キャッチアップないし追い越し(catch-up and beyond)、協働(co-evolution)などをキーコンセプトとする経営理論体系のことである。本講義は、受講生に中国の経済改革、中国ビジネスの特徴と動向、中国企業の成長と発展戦略、中国企業と日本企業との経営比較などに対する理解を深めてもらうことを目的とする。まず中国経済の改革開放の歴史を把握し、その上で、ケース研究や文献検討により中国ビジネスの発展や中国企業の成長の秘訣を考察する予定である。本科目の到達目標は以下の通りである。 (1) 中国経済の改革開放の歴史と現状を理解できるようになる。 (2) 中国ビジネスの特徴と動向を把握できるようになる。 (3) デジタル時代の中国企業の成長戦略に対する理解を深めることができるようになる。 (4) 中国企業と日本企業のマネジメント上の違いに対する理解を深めることができるようになる。										
評価の方法・基準	配点は、レジュメに	こよる発表・予	習を 40		する。 いを 30%、最終レポートを 30% 79 C:60~69 D:60 未満」と						
	No	教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年			
テ	1	秋川官石		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ISDIV		ШЛХТ.	山水平			
テキスト											
1	2										
参考文献等	3 必要に応じてプリントを配布する。 参考文献: 佐々木信彰(2018)『転換期中国の企業群像』晃洋書房。 高口康太(2017) 『現代中国経営者列伝』星海社。 永井竜之介(2020)『リープ・マーケティング:中国ベンチャーに学ぶ新時代の「広め方」』イースト・プレス。 井上達彦・鄭雅方(2021)『世界最速ビジネスモデル:中国スタートアップ図鑑』日経 BP 社。 岡野寿彦(2020)『中国デジタル・イノベーション:ネット飽和時代の競争地図』日本経済新聞出版社。 野林健・長尾悟編著(2011)『国際政治経済を学ぶ:多極化と新しい国際秩序』、ミネルヴァ書房。 江若塵・王丹編著(2017)『中国トップ 500 社ケース精選:中国大手企業の革新・転換の軌跡』シリーズ (中国語:"中国 500 强企业案例精选:寻求中国大企业创新转型发展的路径")中国・経済管理出版社。										
と授業の関連性実務経験の概要											

			事前学習		
	主題	概要	事後学習	時間	事前•事後学習
1	中国という国とは	中国の政治体制と経済発展 の概要	事前学習	2	事前は中国ビジネスや関心する中国企業の経営動向 を調べておく。
1			事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
2	中国経済の改革開 放:中国学者の観点	1970 年代末から今日までの 改革開放の軌跡	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	から		事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、 整理する。
3	中国経済の改革開 放:外国学者の観点	中国の国有企業改革	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	から	()(-75)	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
4	ケース研究(1)	ハイアール(海爾)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。
	L STIPE(O))) 12 (W#+H)	事後学習	2	事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、整理する。
5	ケース研究(2)	レノボ(聯想)	事前学習	2	発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他 の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	中国のデジタル・イノ	中国のプラットフォーム・ビジ	事後学習	2	事後は技業で勉強・議論した内谷のホイントを復省し、 整理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
6	中国のテンタル・イノベーション	中国のノフットノオーム・Eシ ネス 	事前学習	2	
	ケース研究(3)	アリババ(阿里巴巴)	事後学習	2	要理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
7	クー 本 切え(3)		事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	ケース研究(4)	テンセント(騰迅)	事後学習	2	要理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
8	クーA研究(4)		事前学習	2	
	ケース研究(5)	シャオミ(小米)	事後学習	2	整理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
9	ク		事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	ケース研究(6)	ピンドゥオドゥオ(拼多多)	事後学習	2	整理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
10	ク	ことにリストリス(1元多多)	事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	中国企業の飛躍的成	中国企業における「加点型	事後学習	2	要理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
11	長戦略(1)	マーケティング」の観点	事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	中国企業の飛躍的成	中国企業における「未来型	事後学習	2	整理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
12	長戦略(2)	井創マーケティング」の観点	事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	中国企業の飛躍的成	中国企業における「ブルー	事後学習	2	要理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
13	長戦略(3)	ポンド戦略」の観点	事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	中国企業の飛躍的成	中国企業における「ブリッツ	事後学習	2	整理する。 発表担当者は発表のレジュメを準備しておく。その他
14	長戦略(4)	スケール戦略」の観点	事前学習	2	の受講生は文献を熟読し、予習ノートを準備する。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
	総合発表と期末レポ	第 1~14 回の内容に基づい	事後学習	2	整理する。 これまでの講義内容や授業中の議論を振り返り、期末
15	一トの提出	て、期末レポートをまとめ、総 合発表の後に提出する。	事前学習	2	レポートをまとめておく。 事後は授業で勉強・議論した内容のポイントを復習し、
		日元女ツ攻に近出りる。	事後学習	2	事後は反素で勉強・議論した内谷のホイントを復省し、 整理する。

								東洋学園大学					
区分	5 17	実践の	开究科 目	科目名		スタディ1 ケティング)	担当者	隈本 純					
	開	講	朝 間	春学	 :期	選択・必修の別	選択						
	配		下 次	2年	- / ·	単 位 数	2 単作	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>					
	授	業	形 態	講義	科目	ナンバリング	8MK0	G-301					
		络経験の				6 Mr. II 6 II	A 1177.1						
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標 実践事例を用いて企業の社会的責任や法令順守等を含めた経営に関する知識の修得 カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ CP-4 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディス												
カリキ			, ,— ,—		カッションなどの技行	術を習得する。							
講義の目的・内容	将来マーケターを目指す人材にとって、マーケティング戦略の本質を理解するために、その理論的背景を学ぶことは極めて重要である。それと同時に、現実のビジネスの世界において企業が具体的にどのような行動をとり市場に適応しようとしたのかを様々な視点から独創的に検証するスキルを身につけることも必要である。本科目では市場環境分析やマーケティングミックスの各側面などのマーケティング戦略のキーポイントを深く理解するための具体的な企業・商品事例(ケース)を各回の授業に配置してある。受講生がそれらのケース分析課題を通じて当該企業活動を擬似体験し、グループ討議を通じて自らの戦略的判断の精緻化と現実妥当性の精度を向上させることを講義の目的とする。なお、本科目はSDGs目標の「つくる責任、つかう責任」と関連している。												
到達目標	1)ケースに書かれている企業活動に関する実態、課題・問題点を理解すること 2)新たな情報を収集するなどして課題解決に向けた施策を多面的に考察し、提案として取りまとめるスキルを身につけること 3)効果的なプレゼンテーションを設計し、周囲の批判的考察に対して建設的な反駁ができるようになること												
評価の方法・基準	果の	独創性•	説得性(30%	6)の3項目		義参加度(40%)、課題成果の 引いて総合的に評価する。	自己理解	解·論理一貫性·情報量(30%)、成					
	No		教科	書名	著者	ISBN		出版社 出版年					
テキ	1	ケース	に学ぶマーク	ケティング	青木幸弘	978-4641184268		有斐閣ブックス 2016					
テキスト	2												
	3												
参考文献等	参考	書につい	ヽては、クラフ	の講義内容	に合わせて随時紹介して	Σνν<。							
と授業の関連性実務経験の概要													

			事前学習		
	主題	概要	事後学習	時間	事前•事後学習
	講義ガイダンスと導入	授業の概要、進め方、学習目標、成績評価方法、受講のルールなどについて	事前学習	2	ケーススタディの方法論について事前に調べておくこと。
1	授業	ガイダンスする。導入授業としてケースス タディの学び方について解説するととも に、教科書第1章の事例(CASIO G- Shock)について概説する。	事後学習	2	事後はこの授業で学ぶ授業内容について調べること。 次回の授業課題に向けて準備をすること
	競争戦略	ライフネット生命のニッチャー戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
2			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	セグメンテーションと ターゲティング	パナソニックの新たなセグメント創造戦 略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
3			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	ポジショニング	スターバックスとドトールのポジショニン グ比較分析	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
4			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	消費者行動	はじめての結婚式列席用ドレス選び	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
5			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	マーケティング・リサー チ	Jリーグクラブのデータを使った分析とソ リューションの提案	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
6			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	新製品開発	「お~いお茶」の製品開発と競争	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
7			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	価格戦略	久原本家の価格戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
8			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	流通経路戦略	ライオンの新たなチャネル構築戦略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
9			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	コミュニケーション戦略	アサヒビールの顧客コミュニケーション戦 略	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
10			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	新たなブランド構築	Pasco「超熟」ブランドの製品ライフサイク ルとブランド拡張	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
11			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	サービスの本質	加賀屋の「おもてなし」	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
12			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	経験価値創造のマー ケティング	東京ディズニーリゾートにみる価値創造 の施策	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
13			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
	関係性マーケティング	ハーレーダビッドソンの仕掛けるリレーションシップとは	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
14			事後学習	2	受講後は教科書を復習し、ケース課題の解答と講師の解説と を照らし合わせて復習する。関連する他の企業事例や記事を 調べて理解を深めておくこと。
15	インターネットマーケテ イング、総括	東急ハンズのオムニチャネル戦略。講義 全体のまとめ。	事前学習	2	教科書該当章を輪読し内容を自分なりに取りまとめること。 章末に提示されたケース課題の解答に取り組むこと。
19			事後学習	2	受講後は教科書全体を復習し、講義ノートを読み返しながら、 今学期の学習内容について復習し、理解を深めておくこと。

										21471				
区分		実践研究科目			科目名		スタデ イナンス	•	担当者	畔上 秀	人			
	開	講	期	間	春学	 :期	選択	・必修の別	選択					
	配	当	年	次	2年		単	位数	2 単位	Ĺ				
	授	業	形	態	講義	科目	ナンバリング 8CMM-301							
	実	務経	険の有	「無										
ディフ	ディプロマポリシー(DP)における教育目標 実践事例を用いて企業の社会的責任や法令順守等を含めた経営に関する知識の修得													
カリギ	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ CP-4 経営実践現場を想定したロールプレイング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの技術を習得する。													
	本科目は実践研究科目であり、ファイナンス(金融)分野の発展的内容を学習するものである。 ここでは、ファイナンスを利用する主体 たの業 政府 個人(支針)に大切ける													
講義の				企業と大企業での特徴を示し		イナンスの手法が異なり、	前者に比べ	べて後者の方が選	尺肢が多	い。具体的なファイナン	スの手法を			
目的	政	府のこ	ファイナ			行がすぐに想起される。	しかし、これ	ルは主に財政学で論	能られる	内容なので、ここでは P	FI のケース			
内容	最		個人			なものであり、自身の現在				とい。例えば、貸与型の	奨学金もパ			
						`のように返済していくかと まを、事例をもとに理解す			-					
74.1						で選択できるファイナンス場合は返済まで、一連の				を調べられるようになる。				
到達														
月														
標														
1示														
評価の方法・基準	取律 ポー (2)	-ト 60% 評価基	印識を との基 基準	準で評価する	00	こし、提出する。授業参加 0~69 D:60 未満】	態度と授業	への貢献 40%、課題	頃レ					
	No			教科書名		著者		ISBN		出版社	出版年			
テキ	1													
テキスト	2													
1	3													
	テキ	・ストは	指定し	ない。		I								
参考														
参考文献等														
7														
と授業の関連に実務経験の概要														
乗の関の														
連概性要														

主題 概要 事前学習 事後学習 時間 事後学習 事前・事後学習 ファイナンスとは 基礎研究科目、基幹研究科目の履修 において、ある程度ファイナンス(金融) に関する知識を身につけているという 前提で、ファイナンスの意味を再考す る。 事前学習 事後学習 2 これまでに学んだファイナンスに 整理しておく。 経済主体ごとに異なるファイナン る状況について、自分の認識に を復習する。 事後学習 を復習する。 大きな企業が金融機関から融資 き、実際にはどのような方法にな	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
ファイナンスとは 基礎研究科目、基幹研究科目の履修において、ある程度ファイナンス(金融) に関する知識を身につけているという前提で、ファイナンスの意味を再考する。 コーポレートファイナ コーポレートファイナンスとは、企業が 本後学習 2 大きな企業が金融機関から融資	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
1 に関する知識を身につけているという 前提で、ファイナンスの意味を再考す る。 事後学習 2 る状況について、自分の認識に を復習する。 大きな企業が金融機関から融資	ノスが必要とな
コーポレートファイナ コーポレートファイナンスとは、企業が 大きな企業が金融機関から融資	
達し、企業活動を行うことである。ここで ておく。	
2 は、コーポレートファイナンスの概念と、 銀行を中心とした間接金融に分類され 事後学習 2 ともあるので、それらを調べて学 る機関からの融資について考察する。 する。	
コーポレートファイナ 社債の発行による資金の調達について	
事後学習 2 実際にどのような企業から社債にいるのかを調べてみる。	が発行されて
コーポレートファイナ 株式の発行による資金の調達について タンス3 株式の発行による資金の調達について 事前学習 2 行による資金調達では、どのようのかを調べておく。	
事後学習 2 株式市場から資金調達できる企 に何社あるのか、調べてみる。	主業は、具体的
中小企業のファイナン 中小企業が金融機関から融資を受ける オ(犯を考察する。大企業と異なる点の 事前学習 2 中小企業の定義と、実際の企業 かいて調べておく。	きの実態につ
5 一つは、信用金庫や信用組合といった、組合組織の金融機関から融資が受事後学習 2 金融機関側の融資姿勢を、金融はられるということである。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
中小企業のファイナン 中小企業向けには様々な融資制度が ある。それらについて、実例で学習す 事前学習 2 中小企業向けの融資制度につ け調べておく。	
る。 事後学習 2 金融機関融資と比べて、制度融 でデメリットを比較してみる。	虫資のメリットと
中間レポート発表 大企業のケースを取り上げ、何を目的と して、どのような方法でいくらの資金を 事前学習 2 ケースとして課す資金調達事例を熟読する。	」に関する資料
7 調達したのかをレポートする。そして、 その資金調達は成功したといえるか否 事後学習 2 他の履修者の発表を聴いて、学 かを判断し、自分の意見を発表する。	≠んだことをまと
個人事業のファイナン 通常、個人事業であっても、金融機関 事前学習 2 金融機関が個人事業に融資す から融資は受けられる。ここでは伝統的 事前学習 2 との違いはどこにあるのかを考え	えてみる。
「	
パーソナルファイナン 個人が資金を必要とする場面を考え、 その方法を考察する。 事前学習 2 個人が住宅を保有する場合や、 費を支払う場合、どのような資金 あるのか、調べてみる。	念調達方法が
事後学習 実際の金融機関には、どのよう。 変のサービスがあるのか、調べ	てみる。
パーソナルファイナン 個人のライフプランを考え、その中で資 本計画を立てる方法について学習す 事前学習 2 個人のライフイベントとして、どの あるかを調べておく。	
る。 事後学習 2 個人のキャッシュフロー表を、目 いて作成してみる。	
政府のファイナンス① 政府の資金調達方法を考察し、PFIと 事前学習 2 政府の財政について調べておく	<u><.</u>
政府のファイナンス② いくつかの PFI 事例を取り上げ、考察 事前学習 2 事前に紹介した PFI 事例についする。	
事後学習 事後学習 2 講義で取り上げていない PFI 事	
ファイナンス事例研究 ① これまでの講義の中で紹介したファイナンスの種類について、履修者が興味 事前学習 2 を持ったものについて、事例を調べて 事前学習 2 を持ったものについて、事例を調べて 準備をする。	調べて発表の
発表する。 事後学習 2 他の履修者の発表を聴いて、学 める。	
ファイナンス事例研究 これまでの講義の中で紹介したファイ ②	調べて発表の
発表する。 事後学習 2 他の履修者の発表を聴いて、学 める。	[≤] んだことをまと
全体を通したファイナ 学習を通じて、ファイナンスの現状につ 事前学習 2 全体の学習を復習しておく。	
13 フスに関する戦闘	作成する。

							東	洋学園大学		
区分	517	実践研究科 目	科目名		スタディ3 マン・リソース)	担当者	横山	和子		
	開	講期間	秋学	 期	選択・必修の別	選択				
	配	当年次	2年		単 位 数	2 単化	7.			
	授	業形態	講義	科目	ナンバリング	8MA	N-301			
	実績	務経験の有無	2 4 42 4	経験該当科目						
ディブ	プロマボ	リシー(DP)における教育		実践事例を用いて強いの	企業の社会的責任や法	令順守	等を含めた経	営に関する知		
カリキ	減の修行									
講義の目的・内容	接着においては、理論例はよれないように、原理・原則を吸まっつつ実際例の研究を通じて、地域の経済・政治・任会の変化とその背景についての考察、討議を通じて、のののでは、現実世界の理解ならびに FACT FINDING の大切さ、複眼思考の大切さを学ぶ。加えて、SWOT (Strength, Weakness, Opportunity, Threat)分析を実施することにより、学習するケース企業の経営資源の最適化の可視化を目指す。 3. 進め方:より実践的に、討議中心。講義内容は適宜、変更することもある。 建業においては、理論例はよれないように、原理・原則を吸まっつつ実際例の研究を通じて、より実際的、応用力につながる方向を目									
到達目	(:	1)ロジカルシンキング(ク) 2)効果的なコミュニケーシ 得ができるようになる。	ティカル ョンの重	ンシンキング)の基本を習 変性の理解とビジネスコ	ミュニケーションの基本スキル	- , , - , .	, .			
標	()	3)課題の意図を理解でき	る能力を	と身に看けることができる。	ようになる。					
評価の方法・基準	「ビ する。 (2) 講 特に	評価基準	(30%) y姿勢を	、レポート(事前・事後学 全重視する。	、講義参加、事前・事後学習、 ・習) (40%)、期末レポート(30	. , , , , , ,				
	No	教科書名		著者	ISBN		出版社	出版年		
テキ	1	東南アジアで起業する		横山和子他	978-4-8309-5144-2		文眞堂	2021		
テキスト	2									
	3									
参考文献等	必要に応じて、ハンドメイドのプリントを配布する。									
と授業の関連性実務経験の概要	国際	公務員としての実務経験	を活かし	、職場で起こる問題等の	解決方法を適宜紹介する。					

	主題	概要	事前学習事後学習	時間	事前·事後学習
1	ビジネススタデイ 3 (ヒューマン・リソース) は何を学ぶ科目か?	本科目の狙い、授業の進め方、本科目と経営 科目との関係、ビジネス・スタデイズの検討すべ き視点、領域・研究方法を中心に説明し、質疑	事前学習	2	ユニクロのグローバル人事制度、特に人材活用法について調べ、A-4で1枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
		応答を行う。授業の効果的な進め方についての 意見交換も行う。	事後学習	2	楽天のグローバル人事制度を調べ、その取り組みを A-4で1枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
_	【第1章】日本型雇用 システムから成果主義	グローバル化が進む中、日本企業のグローバ ル化が着実に進んでいることを理解できることを	事前学習	2	日本で女性の活用が遅れている理由について調べ、 A-4で1枚程度に整理し、レポートとして提出する。
2	型雇用システムへの移 行	目的に討議を行う。	事後学習	2	何故日本デダイバーシティマネジメントが必要か、 A-4で1枚程度に整理し、レポートとして提出する。
0	【第2章】東南アジア の経済発展	世界銀行のデータを使いながら、東南アジア諸 国の過去 20 年間の経済成長の過程を概観す る。クラスでは今後、経済背張が見込める国、	事前学習	2	テキスト 12 頁、図表 2-1 から東南アジアの新興国について読み解くことができる事柄について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
3		業種についての討議を行う。	事後学習	2	東南アジアの新興国が豊かになっている理由を、例を 挙げながら A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提 出する。
	【第3章】ケース: 中国で起業する日本	報告学生が中国で起業経営を行っている3ケースの概要を報告し、中国のPESTLE分析、事	事前学習	2	学生は中国の PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
4	人起業家	業のSWOT 分析を紹介した後、他の受講学生とケースの特徴・将来性等につき討議を行う。 教員はファシリテータとして参加する。	事後学習	2	中国、上海で事業を始める場合、どのような分野のビジネスが有望と考えられるが?リサーチを行い、事業分野の選択理由、将来性などを A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第4章】ケース: タイでで起業する日本	報告学生がタイで起業経営を行っている3ケースの概要を報告し、タイのPESTLE分析、事業	事前学習	2	学生はタイの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
5	人起業家	の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生と ビジネスを行う上でのネットワーキングについて の討議を行う。 教員はファシリテータとして参加 する。	事後学習	2	海外で企業のトップと仕事をするためにはどのような知識、経験等が必要か?必要と考えられる事項を A-4 で1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第5章】ケース: インドネシアで起業す	報告学生がインドネシアで起業経営を行っている3ケースの概要を報告し、タイの PESTLE 分	事前学習	2	学生はインドネシアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
6	る日本人起業家	析、事業のSWOT分析を紹介した後、他の受講学生と国籍の重要性、自己のアイデンティティについての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事後学習	2	テキスト 61 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚 程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第6章】ケース: フィリピンで起業する日	報告学生がフィリピンで起業経営を行っている ケースの概要を報告し、フィリピンの PESTLE 分	事前学習	2	学生はフィリピンの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析 を行い、その結果を授業に持参する。
7	本人起業家	析、事業の SWOT 分析を紹介した後、他の受講学生と開業資金の獲得方法についての討議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事後学習	2	テキスト 68 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第7章】ケース: ベトナムで起業する日	報告学生がベトナムで起業経営を行っている3 ケースの概要を報告し、ベトナムのPESTLE分	事前学習	2	学生はベトナムの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析 を行い、その結果を授業に持参する。
8	本人起業家	析、事業のSWOT分析を紹介した後、他の受講学生と日本での職務経験の重要性についての計議を行う。教員はファシリテータとして参加する。	事後学習	2	テキスト 82 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚 程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第8章】ケース: カンボジアで起業する	報告学生がカンボジアで起業経営を行っている 4ケースの概要を報告し、カンボジアの	事前学習	2	学生はカンボジアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
9	日本人起業家	PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した 後、他の受講学生と社会起業家の意味につい ての討議を行う。教員はファシリテータとして参 加する。	事後学習	2	テキスト 99 頁、Section C の質問について A-4 で 1 枚 程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第9章】ケース: ミャンマーで起業する	報告学生がベミャンマーで起業経営を行っている3ケースの概要を報告し、ミャンマーの	事前学習	2	学生はカンボジアの PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を行い、その結果を授業に持参する。
10	日本人起業家	PESTLE 分析、事業の SWOT 分析を紹介した 後、他の受講学生とミヤンマーで事業展開して いる多国籍企業についての討議を行う。教員は ファシリテータとして参加する。	事後学習	2	テキスト113頁、Section C の質問について A-4で1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
	【第 10 章】 キャリア計画ー起業家	第2回から第10回までに学習したケース起業 家の特性・資質等につき、受講学生と討議を行	事前学習	2	自分が起業を行う予定国、事業分野について A-4 で 1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
11	の特性・資質	う。担当教員はファシリテータとして議論に参加 する。学生は自分が海外で起業するための要 件を満たしているかを確認する。	事後学習	2	テキスト 125 頁、演習問題【タスク 1】に A-4 で 1 枚程度で答え、レポートとして提出する。
12	【第 11 章】起業準備	学習した課題国の PESTLE 分析を振り返る。また、課題国で事業展開している起業の SWOT 分析の振り返りを行う。	事前学習	2	第11章に紹介されている各留意事項について、自分の回答を行い A-4 で1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
			事後学習	2	テキスト 136 頁、演習問題【タスク 1】、【タスク 2】に答 え、レポートとして提出する。
13	ユニクロのバングラデ シュへの事業進出	バングラデシュのブランド、Youtube「グラミン・ユニクロ」を視聴し、学生と新興国での事業創出について検討を行う。	事前学習	2	バングラデシュ、バングラデシュの縫製事業について 調べ、A-4で1枚程度にまとめ、レポートとして提出す る。
			事後学習	2	学生はユニクロのバングラデシュでの取り組みの感想 を A4、1 枚程度にまとめ、レポートとして提出する。
14	【第 12 章】 起業計画書の作成・提	テキスト 140 頁、演習問題【タスク2】に取り組み、起業計画書を作成し、提出する。	事前学習事後学習	10	起業計画書の作成する。 起業計画書の振り返りを行う。
	出 最終授業:受講学生の	受講学生が起業計画書を PPT を使用し、プレ	事依子智	3	起業計画書の依り返りを行う。 起業計画書の PPT を作成する。
		ゼンテーションを行い、質疑応答を行う。			

区分		課	題	研究	己科	目	科 目 名			現代経営特別演習
	開		講		期		間	通年		
	選	択	•	必	修	\mathcal{O}	別	必修		
	配		当		年		次	1~2	年次	
	単			位			数	6	単位	

研究指導スケジュール

区		1 年 次	
分	春 学 期	夏学期	秋 学 期
教員	○オリエンテーション○履修ガイダンス○個別履修相談○研究指導(30時間)	○研究指導(30時間)	○履修ガイダンス ○個別履修相談 ○研究指導(30時間)
学生	○研究計画書提出 ○個別面接指導 ○指導教員確定	○研究計画書確認○個別面接指導○文献調査及び実地調査	○研究計画書確認 ○個別面接指導 ○論文中間報告会 ○論文作成
区		2 年 次	
分	春学期	夏学期	秋 学 期
教員	○オリエンテーション○履修ガイダンス○個別履修相談○研究指導(30時間)	○研究指導(30時間)	○研究指導(30時間) ○論文審査及び修了認定
学	○個別面接指導 ○論文計画書提出 ○論文作成	○論文計画書確認○個別面接指導○調査研究のまとめ	○個別面接指導 ○論文研究発表会 ○論文提出

※研究指導における単位数の考え方

春学期:2時間/週 × 15週 = 30時間 夏学期:6時間/日 × 5日 = 30時間

年間3単位 × 2年間 = 6単位

秋学期:2時間/週 × 15週 = 30時間

*研究指導に限り夏期休業期間を利用した夏学期を設定

経済のグローバル化と賃金・雇用への影響に関する理論的かつ実 証的研究

担当者

田中 巌

自由貿易の進展や多国籍企業による海外現地生産の拡大に象徴される経済のグローバル化は、国際的な価格競争を激化させて、国家間のみならず一国内における経済格差をももたらしているとよく議論される。国家が開放的であればあるほどその国の企業は国際競争力を高めなければならず、部品や資金、労働力をできるだけ低いコストで調達しようと考える。したがって、日本のように製品輸出に過度に依存した経済では、円高になるだけである種の労働の国内需要は低下しやすいということが容易に類推出来る。そこで、本演習では実質実効為替レートの変動と東アジアにおける垂直的統合の展開について考察し、それらが日本の製造業における雇用と賃金に及ぼす影響について検討する経済学的分析方法を身に付けることを目的に研究指導を行う。

1年次においては、世界のグローバリゼーションの流れを歴史的に概観し、先進国と発展途上国の間の所得格差、先進国内における賃金格差、発展途上国間に見られる格差について、統計データを用いながら現状を理解する。次に、日本的雇用形態の特徴とその変化を踏まえて、日本経済のグローバル化との関係について検討する。また、国際貿易理論を学習しその応用としてアメリカにおける貿易と賃金の問題を取り上げ、両者の関連性を捉える経済理論的枠組みを習得する。さらに、海外アウトソーシングやスウェットショップなどの国際的な経済トピックスを紹介し、自由貿易と競争の進展する社会で果たすべき政府の役割とは何か議論する。その上で、2年次における修士論文のテーマについて検討する。受講生には、英語の経済文献にも積極的に取り組もうという意欲ある姿勢を期待する。

テ 国際経営・経営戦略・デジタル経営に関する理論的かつ実証的**研** 究

当者

李 新建

グローバル化やデジタル化が日増しに進んでいる時代に、企業を取り巻く環境は激変している。グローバルな競争に 勝ち抜くためには国内経営と異なるグローバル経営のアプローチが求められ、不連続な変化が広範囲に起こるデジタル 時代を生き延びて発展していくためには、技術面のイノベーションのみならず、ビジネスモデルの転換も必要とされ る。如何にしてグローバルとデジタルな視点を持ち、複雑で不確実性が高い外部環境の変化に対応し、持続的な競争優 位を構築するかが企業の生死に関わる重要な課題となる。

演習のキーワードは国際経営、経営戦略及びデジタル経営である。具体的には、グローバル経営、異文化経営、成長戦略、デジタル経営・プラットフォーム戦略、経営イノベーション等の問題を中心として理論研究及び実証研究を行う。実証研究の対象は従来の製造業・サービス業から21世紀のデジタルプラットフォーム関連企業やコンテンツ企業まで、日米欧韓先進国多国籍企業から中国やインドをはじめとする新興国企業まで、の幅広い範囲とする。同時にゼミ生の修士論文の作成のための研究指導を行う。受講生には、高い求知心と明確な問題意識を持って演習に参加することを求める。

内 テキスト:ゼミ生の関心に応じて、適宜参考資料を配布する。

容 参考文献:

油

習

 \mathcal{O}

目

的

内

江夏健一・桑名義晴(編著)『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』(第4版) 同文舘 2018.

根来龍之『集中講義デジタル戦略』日経BP 2019.

Bartlett, C.A. & Ghoshal, S. *Managing Across Borders: The Transnational Solution*. Boston: Harvard Business School Press, 1989.

Collis, D. International Strategy: Context, Concepts and Implications. United Kingdom: Wiley, 2014.

テーマ	家計や企業にかかわる諸問題の実証経済学的手法による研究 増当者 畔上 秀人
演習の目的・内容	現代社会におけるほとんどの問題は、経済と関連している。それは、社会を形成する人々が、生産・分配・消費といった経済活動を行って生活しているためである。たとえば環境問題は、その実態の把握には自然科学分野からの分析が不可欠であるが、企業や家計の経済活動を念頭に置かない解決策は実効性を有しない。すなわち、環境問題を伴わない原料や技術が開発されたとしても、その価格が著しく高価であれば、普及は望めない。また環境問題を伴う物質の使用を一切規制するのであれば、自然科学による深い分析すら必要ではない。ま后、問題による社会的厚生の損失を減らしつつ、人々の経済活動をなるべく変化させない方法が実質的な解決策となる。 一方で、社会的厚生の変化を経済理論だけに基づいて分析することも意味を持たない。理論的分析に用いた変数を代理する現実経済の数量を見つけることは、非常に難しいことが多いのである。たとえば、マクロ経済分析上現在では固定資本として扱われる企業のソフトウエアも、かつては中間消費として取り扱われていた。その移行過程を顧みれば、マクロ経済変数が実態と乖離していた期間があったとわかる。 本演習では、受講者の関心に基づいて広い範囲の中から課題を設定し、経済学的手法で分析を進める。従って、事前に特定のテキストは指定せず、研究の途中で必要となるごとに適した参考文献を閲読する。1~2年次を通じて、データの収集と分析、考察を繰り返してゆく。

テーマ	contemporary issues on marketing and consumer behavior (マーケティングと消費者心理に関する理論的かつ実証的研究)	担当者	隈本	純
演習の目的・内容	As consumer's demands and lifestyles in industrialized countries become business communities confront a host of difficult issues of selling more prhis/her satisfaction. One of the key solutions is to search and enter new in segment) where can hold the promise of growth and larger profits. Compresservation of an unique business models with interdisciplinary approach such solution of running a business effectively and strategically. This special seminar mainly focuses on the logic of marketing strategies are consumed in the global markets. It also covers key features of uncont cultural, economic, legal, etc.) of extrinsic factors of markets. Psychological decision making process of consumers are also analyzed. Students are and/or empirical research based on the seminar contents. Classroom dismodel presentations will complement lectures given by the instructor. Refereduced turing the course. なお、この特別演習は日本語、英語、両方の言語	odurnark ehe nes, and rolla cal / equ cuss	cts and services ets (or to target in the sion of marketing will play an imposion products and the elements (graphysiological faired to conduct the sion with cases ances will be proving the sion with cases and the sion with the sion wit	to meet new ng concepts, ortant role in d services eographical, ctors affect heoretical and business rided upon

テーマ Trends in International Human Resource Management: People, 担当者 セーラ・ルイーザ・ バーチュリ

Managing human resources is a key area of business and management. Globalisation and the changing economic, demographic, and political landscape means how we define and study Human Resource Management (HRM) and how it should be put into practice, is constantly evolving and requires an international orientation.

The aim of this seminar is to give you the knowledge, understanding, and skills required to empirically research, work with, and manage people in global organisations. Themes covered include internationalization, cross-cultural issues, team building, communication, motivation, talent management, issues related to diaspora, expatriation, and repatriation, ethical challenges of multinational corporations, training and development and the impact of digital transformation.

In this course you will develop strong verbal and written communication skills and increase your intercultural awareness. We use contemporary research articles, white papers, and government reports to enrich lectures and stimulate academic discussion. The course also combines exploring new theoretical insights with practical research skill development. Students are highly encouraged to engage in field-research both in Japan and/or overseas and engage with a wider academic community through joining conferences.

この特別演習は日本語、英語、両方の言語で対応して開講します

演

習

 \mathcal{O}

目

的

内

習

の目的

内

容

テーマ	組織デザイン研究ないし経営学説研究	担当者	赤尾充哉
-----	-------------------	-----	------

企業組織は単に社会生活を営む場ではなく、特定の目標をより効率的・合理的・戦略的に遂行しようとするものであり、そのためのシステムを有するものでもある。それらシステムをいかにデザインすべきかというのは、企業組織を経営するにあたって、根本的に重要な問題である。本科目は、こうした組織デザインの問題を主たステーマとして取り扱う

織デザインの問題を主たるテーマとして取り扱う。 特に、技術変化の速度が速い今日の経済環境においては、組織の生存のために、より柔軟で敏速な組織体制が求められる。こうした問題には、意思決定理論、組織行動理論、進化の経済理論、ダイナミック・ケイパビリティ論などが大きく関わる。これらの理論は、本科目における研究の主要な理論的ツールとなる。

本科目におけるアプローチは、実証研究よりも理論研究・学説研究を中心とする。必要に応じて、学説研究の方法論や科学哲学について学習する場合もある。

テーマ	企業活動におけるデザインを対象にした経営学的手法による研究 当者 安藤 拓生
演習の目的・内容	企業活動におけるデザインを対象にするデザインマネジメントは、1970年台の前半から経営学の一領域としてその研究が始まった。初期の研究では商品の色・形、コーポレートアイデンティティなどの有形のデザインが対象にされていたが、その後の実務領域におけるデザイン対象の拡大に伴い、サービスや顧客経験のような無形物のデザインをも対象に含むようになっていった。このような変化のもと、現在ではデザインはより広義に認識されるようになり、その考え方や思考方法のビジネスへの応用といった側面にまで研究が広がっている。本演習では、企業活動におけるデザインを広義に捉え、受講生の関心に基づいてこれに関連したテーマを設定し、さまざまな周辺的課題を扱いながら研究の方法を学んでいく。特に、デザインを企業経営の一つの要素として捉え、経営学的手法で分析を進める方法を学ぶ。従って、事前に特定のテキストは指定せず、研究の途中で必要となるごとに適した参考文献を閲読する。1~2年次を通じて、テーマの設定からデータの収集と分析、考察を通して研究を実践していく。

テーマ	金融経済に関する実証研究	担当者	冨田	洋介
	本講義では制度経済学の視点から金融経済を多角的に分析する。制度経済重視し、画一的な理論では導き出せない各国の諸事情を踏まえて理論化は検証する学問である。したがって、経済・金融・企業財務・法環境・歴史の機会を持つであろうが、その都度丁寧に内容を解説していく。	· \	その事象につい	ハて実証的に
演習の目	特に金融機関(投資運用、銀行、証券会社、投資顧問、投資信託委託会社 券制度、資産管理、決済、為替など)、企業金融(コーポレート・ファイナンス、企業価値評価)もしくは金融政策に興味があり、熱意のある学生	ーナ	ンス、コーポ	レート・ガバ
的	上記以外でも、金融経済もしくは実証研究に興味のある学生さんについて	ても	歓迎する。	
内容	同時に、院生さん各自のテーマに基づき、計量経済学や多変量解析を中が頂けるように指導する。したがって、ある一定の数学的な能力が求められり一層の努力を要求する。(数学は論文の読み・書きに必要な直感的なまければ問題ない。)	ιδ	ため、初学者の	の場合にはよ
	講義としては、学生さんが興味のある論文の精読からスタートし、その記 ツールの習得と理論の構築方法を学習する予定である。	侖文	にて使用されて	ている分析

テーマ	事業創出による価値創造に関する理論的かつ実証的研究	担当者	馮	晏

近年、ITやデジタル技術の進展により、画期的な製品・サービスや、ビジネスモデルが次々に創出されており、社会に大きな変革をもたらしている。ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)や、Eコマース、ライブコマースなどのビジネスから、これまでに想像もつかなかった多様な価値が新たに提供されるようになった。このような新しい価値は、既存企業だけでなく、イノベーションの担い手として期待されているベンチャー企業の活躍によって生み出されたものも多い。現在巨大企業に成長したアメリカのGAFA、日本のソフトバンクや楽天、中国のアリババ、テンセント(Tencent)なども、かつてはベンチャー企業であった。組織が絶えずに新しい事業を創出し、新しい価値を提供することは、持続可能な経営の源泉であり、経済成長の原動力となる。本演習では、価値創造、アントレプレナーシップ(企業家精神)、イノベーションをキーワードに、

演習の目的

内

容

本演習では、価値創造、アントレプレナーシップ(企業家精神)、イノベーションをキーワードに、 多様な視点から事業創出について理論的かつ実証的に考察する。その際に、既存組織による新事業の創 出だけでなく、独創的な事業を中核に新しい組織を立ち上げることよる事業創出についても検討する。 また、大企業とベンチャー企業のみならず、中小企業と非営利組織(NPO)も研究の対象とする。修士論 文の作成にあたっては、受講生が関心をもつテーマに応じて研究指導を行う。

							> \7	·图入子		
区分	基礎科目	基礎科目 科 日 名			担当者	馮	晏/赤尾	充哉		
	開講期間	通年	•	選択・必修の別	選択					
	配 当 年 次	1年		単 位 数	4 単位	Ĭ.				
	授 業 形態	講義	科目	ナンバリング	8MA	N-101				
	実務経験の有無									
ディプ	°ロマポリシー(DP)における教育	目標	現代的な経営課題	の学習に取り組むために	「求めら	っれる矢	口識の修得			
カリキ	テュラム・ポリシー(CP)上の位置つ	it	CP-1 主要な職能	分野にわたる基礎知識を	習得	する。				
講義の目的・内容	本科目は、大学院における学習・研究を効果的に行うための基礎科目に属する。したがって、現代経営学部(経営学部)出身の入学者にとっては既に学習してきたことの整理・確認および理解を深める機会として、他学部・他分野からの入学者にとっては経営学の基本的な知識を習得し、研究活動の礎を形成する機会となる。 講義内容は授業計画に記載するように経営学全般にわたる。各回、テキストをもとに事前学習していることが前提として講義を進行し、理解確認のためのフォローや関連課題の討議を中心に行う。また、現代の企業経営における実践的なケースを紹介し、経営理論と結びつけて考える習慣を醸成していきたい。 なお、第1~15回(春学期)を馮、第16~30回(秋学期)を赤尾が担当する。									
到達目標	(1)経営学の基礎的知識を習得 (2)経営学を体系的に理解し、 (3)マネジメントの諸理論をベー	売合的・	学際的な思考力の向上		の向上を	2図る。				
評価の方法・基準	(1)評価の方法 経営学に関する基本的な知識 合的に評価する。 (2)評価基準 授業参加 30%、レポート(事前 S:90~100 A:80~89 B:70~	价•事後 [◆]	学習) 30%、期末レポー			習、レポ	ート、期末レポー	-トにより総		
	No 教科書名		著者	ISBN			出版社	出版年		
テ	1		9 1	1021						
テキスト	2									
 										
参考文献等	3 (1)テキスト 初回講義時に指定する。 (2)参考文献 井原久光『テキスト経営学(第3版)』ミネルヴァ書房、2008年 ハーシー、ブランチャード&ジョンソン『行動科学の展開[新版]-人的資源の活用』生産性出版、2000年 ダフト『組織の経営学』ダイヤモンド社、2002年 大滝精一・山田英夫・金井一頼・岩田智『経営戦略[新版)』 有斐閣, 2006年 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣, 2008年 チャンドラー」」『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社, 2004年									
と授業の関連性実務経験の概要										

	主題	概要	事前学習事後学習	時間	事前·事後学習
1	経営学の学び方(1)	授業の進め方、事前事後の学習について解説する。	事前学習	0	なし
	経営学と企業制度(1)	基礎知識や経営分野における関心を確認する。 経営学の学問的位置づけを学び、理論と実践の調	事後学習	2	指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上,
2	ET TELKING	和について考える	事前学習事後学習	2	不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
	経営学と企業制度(2)	株式会社の仕組みを理解し、ステークホルダーとの	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
3		関係を考える	事後学習	2	不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
	経営戦略(1)	経営戦略の位置づけについて理解する。	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
4					不明点などを明確にしておく。
	経営戦略(2)	ポーターの競争戦略について理解する	事後学習	2	指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上,
5	NE 12 154WD (2)	W. J. W. F. FAMILIC ST. CZEIFF) S	事前学習	2	不明点などを明確にしておく。
	(cz. 324 35) młz (o.)	かぶて、> マイ田 3人 1 マート) トップィロ 位刀 ユーフ	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
6	経営戦略(3)	資源ベース理論について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
0			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
_	経営戦略(4)	3つの経済性について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
7			事後学習	2	不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
	経営管理と組織(1)	伝統的な管理理論について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
8			事後学習		不明点などを明確にしておく。
	経営管理と組織(2)	行動科学の理論について理解する		2	指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上,
9	AE D B ZECHENA(2)	1133711 1 (SEE MINIT OF CHEAT) / B	事前学習	2	不明点などを明確にしておく。
	(= W. fr. ==) (= (U /)	An AMARINA	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
10	経営管理と組織(3)	組織構造について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。
10			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
	経営管理と組織(4)	組織文化について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
11			事後学習	2	不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
	人的資源管理(1)	人事制度・人事評価制度について理解する			事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
12	,		事前学習	2	不明点などを明確にしておく。
	人的資源管理(2)	 賃金・労働時間にかかる問題について理解する	事後学習	2	指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上,
13	人的質你官理(2)	貝並・万 剛吋 同にかかる同様に フィ・C 生併する	事前学習	2	事前に配布された資格へ参与資格の相定固角を記念が200mで14を歪座の工, 不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
	人的資源管理(3)	人材育成とキャリアにかかる問題について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
14			事後学習	2	不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
	春学期総括	春学期に学習した内容を振り返る	事前学習	4	春学期の授業で配布した資料、ノートなどを読み返し内容を復習しておく。
15			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
16	経営学の学び方(2)	授業の進め方、事前事後の学習について解説する。 基礎知識や経営分野における関心を確認する。	事前学習事後学習	2	なし 指示された課題に取り組む。
17	マーケティング(1)	マーケティング・コンセプトについて理解する		2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上,
11	7 7 1 7 (2)		事前学習		不明点などを明確にしておく。
	1, , 149/0)	- L= 1, K > h=1; = 1, v=1040-h=7	事後学習	2	指示された課題に取り組む。
18	マーケティング(2)	マーケティング・ミックスについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。
			事後学習	2	指示された課題に取り組む。
19	マーケティング(3)	STPマーケティングについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
			1.44.34.33		┃ 不明点などを明確にしておく。
20	1 - 12/1		1 事後学習	1 2	指示された課題に取り組む。
	マーケアインク(4)	イノベーションについて理解する	事後学習	2	指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上,
20	マーケティング(4)	イノベーションについて理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。
				2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21	マーケティング(4)	イノベーションについて理解する 市場調査について理解する	事前学習	2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。
		市場調査について理解する	事前学習事後学習	2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上, 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
	マーケティング(5) 製品開発と生産管理		事前学習 事後学習 事前学習	2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
21	マーケティング(5)	市場調査について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習	2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
21 22	マーケティング(5) 製品開発と生産管理	市場調査について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習	2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、
21	マーケティング(5) 製品開発と生産管理(1)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習	2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
21 22 23	マーケティング(5) 製品開発と生産管理(1) 製品開発と生産管理(2)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事後学習 事後学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22	マーケティング(5) 製品開発と生産管理(1) 製品開発と生産管理	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事後学習 事後学習 事後学習	2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
21 22 23	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事後学習 事後学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22 23	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22 23 24	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する	事前学習 事後学習 事前学習 事後学習 事前学習 事前学習 事後学習 事前学習 事後学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22 23 24	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する	事前学習 事後学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22 23 24 25	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する	事前学習 事後学習 事後学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 非立れた課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
21 22 23 24 25 26	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する	事前学習 事後学習 事後学習 事後学学習 事後学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22 23 24 25	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する	事前学習 事後学習 事後学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 非立れた課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
21 22 23 24 25 26	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する 経営指標について理解する	事前学習 事後学習 事後学習 事後学学習 事後学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習 事後等学学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。
21 22 23 24 25 26	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する	事前学習 事後学習 事後学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習 事後学学習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
21 22 23 23 24 25 26 27	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する 経営指標について理解する	事的学習習事後前等學習習事後前等學學習習事後前等學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
21 22 23 23 24 25 26 27	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (3) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する 経営指標について理解する	事的学学習 習事後前後 等等學學習 習事後前後 等等學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、 不明点などを明確にしておく。
21 22 23 24 25 26 27 28 28	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1) 会計学(2)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する 経営指標について理解する 企業の社会的責任について理解する	事務 事後 前後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。
21 22 23 24 24 25 26 27 28 28	マーケティング(5) 製品開発と生産管理 (1) 製品開発と生産管理 (2) 製品開発と生産管理 (4) 会計学(1) 会計学(2)	市場調査について理解する 生産管理活動について理解する 生産形態について理解する 製品開発について理解する デザイン・マネジメントについて理解する 企業会計の基礎を理解する 経営指標について理解する 企業の社会的責任について理解する	事的学学習 習事後前後 等等學學習 習事後前後 等等學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學學	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。 指示された課題に取り組む。 事前に配布された資料や参考資料の指定箇所を読み込み内容を整理の上、不明点などを明確にしておく。